

よつて工業恐慌を緩和しやうと試みてゐる。農業恐慌に關しては、獨裁はこれに向つて無力なことを聲明した。

一六

一般的帝國主義戰線——バルカンに於て、地中海に於て、トルコについて殊にサヴェト・ロシアについて——ギリシヤはかなりの重要性を帯びてゐる。これによつて——列強の支持を得て——ギリシヤの命は續き、その間はヴェニツェロス獨裁の命も續いてゐるのだ。

甚しくなつてゆく恐慌は、その克服のためにとられたる方策と關聯して、内部的諸對立を未曾有の程度に尖鋭化させた。何よりも先づ、プロレタリアートと貧農階級とを一方とし、ブルジョアジエを他方とする主要對立、並びに支配階級内部の對立。農村では分化が行はれてゐる。即ち大地主と富農とは國立銀行と新設の農業銀行との信用によつて支持され、その上租稅輕減の恩恵に浴してゐるのにひきかへて、破滅した中農階級の主要大衆の状態は益々見込なきものとなりつゝある。農民階級は革命的闘争に向つて押しやられてゐる。政府、銀行並びに大ブルジョアジエの聯合力によつて遂行される産業の「合理化」とトラスト化——これは「生活能力ある」部門と企業とをもちたてることを目標としてゐる——とは都市中ブルジョアジエにとつては恐慌を尖鋭化させる結果になつてゐる。農民と労働者大衆の購買力は特に失業の増大と關聯して低下してゐるが、これは商業ブルジョアジエ、殊に小ブルジョアジエの状態を危くする。

労働者階級自身に關しては、失業の増大と共に、次の諸點に向つて非常な攻撃を受けてゐる。賃銀

労働時間の攻撃、搾取方法の激化による一般労働條件の攻撃、社會保險及び労働者の政治的權利の攻撃はそれである。

政治生活の領域の現象は、經濟の領域の對立激化を反映してゐる。

ヴェニツェロスは議會——彼の政權獲得直後に選舉された——で非常な多數派の與黨を擁してはゐるが、本質上彼の地盤としてゐるのは經濟的には最も強力であるが、狭少な基礎、即ち金融資本と大工業資本であり、また軍隊の重要部分である。その軍隊の將校からは信頼し難い分子は彼によつて根本的に除かれてしまつた。だがヴェニツェロスが和解の方策を講じたにも拘はらず、一部の大地主黨と小ブルジョアジエを成員とする王黨は、政府につきかゝり、議會をボイコットしてゐる。ヴェニツェロスの支持者の陣營内そのものにも分裂がある。コンディリス將軍は中間階級の不滿に目をつけ、デマゴグ的農民黨に同盟を持ちかけ、公然ヴェニツェロスに反對してゐる。革命的情勢の成熟と現在の獨裁の倒壞の可能性とを見て、大衆の不滿を利用し、労働者と貧農とを瞞し、小ブルジョアジエを引きこみ、新しいファシスト獨裁を樹立せんとする策動がある。

切迫せる闘争に於て、ギリシヤのプロレタリアートと貧農階級とが最も激しい恐慌と廣汎な小ブルジョア大衆の不滿との雰圍氣のなかにあつて前にする敵は、金融資本の最も露骨なる獨裁——その頭部には、帝國主義列強に支持された老獪百練の政治家が立つてゐる——であり、またその後にしてゐるのは、「反對派」の役を勤めるファシスト獨裁の新候補者の姿である。

これによつて戦略的勢力状態が決定される。来るべき事件は第三期の時期に、世界恐慌が未曾有の尖鋭化を呈する時期に演じられるのだが、この事實は、来るべき事件が××××××××××見込みを本質的に高めるものだ。

二 恐慌の尖鋭化 (ベトロプーウエ、一九三〇年二月十一日)

すでに最近の報道は、ギリシヤを襲つてゐる経済恐慌、階級対立を極度に尖鋭化させる経済恐慌の度を書き出すことを許すほどになつてゐる。この國のすべてのブルジョア新聞は警報を鳴らしてゐる。昨年は『苦惱と缺乏』の年だつた。この年は、ブルジョアジーの奴僕と分けてもヴェニヅエロスとが黄金の山を期待してゐた『安定化』が粉々にぶちこはれたことを示した。

工業の状態を観察して見やう。工業生産の總價値は、最近五年間に次の如く發展した(單位十億下ラクマ、一ドラクマ〓六・六ベニヒ)。一九二五年〓四・八、一九二六年〓五・〇、一九二七年〓六・一、一九二八年〓六・七、一九二九年〓五・七。

昨年の工業生産の價値は従つて、前年の工業生産の價値よりも一五%低下した。ギリシヤ最大の經濟新聞『イコノミコス・タヒドロモス』(Ikonomikos Tachidromos)は、最近數年間に賣れ残り商品の大量貯蔵が國內に山積してゐると書いてゐる。これは何によつて説明されるか? 資本主義的安定化の費用負擔は勤勞人口の購買力に非常な打撃を與へ、労働者階級の賃銀と獲得成果とに對する攻勢は非常に強度であり、また農民の恐慌は非常に尖鋭化してゐたから、それが廣汎な勤勞大衆の購買力を低下させたのだ。ブルジョア經濟家の多數は勿論、この恐慌を、『貨幣の不足』により、『貨幣市場の狹隘』によつて説明してゐる。だが彼等のすべても、現在『購買が減つた』といふ點では一致してをり、正にこゝにこそ全『秘密』があるのだ。

農業の状態はどうか? 農業は、若干の發達の徴候を持つにも拘はらず、恒常的な恐慌に陥つてゐる。一九二九年には穀物耕作面積は一三%の増加を示しはしたが、農民は總耕作面積を六%減らさざるを得なかつた。低廉な價格は農業を壓迫し、農民を永遠に高利貸資本と銀行資本とに依頼させ、そして堪え難い租稅負擔は農民のプロレタリア化の過程を加速化してゐる。これこそはブルジョアジーを極度に恐怖させることだ。

こゝに現在の恐慌、世界經濟恐慌と密接に結びついてゐる恐慌の根源がある。この恐慌の結果は工業經營の支拂停止の増加だ。一九二九年には破産數は最高點に達した。一九二六年〓一八七、一九二七年〓一一九、一九二八年〓一八九、一九二九年〓三八二。他方に於て建築作業は減少してゐる。一九二八年には百七十四の大建築があつたのにひきかへて、一九二九年にはかゝる建築は僅かに五十二だけ着手されたに過ぎない。株式相場の指數も亦た同様の様相を示してゐる。一九二九年の一月から十二月までの期間に、相場は一〇%乃至四〇%下落し、五〇%方暴落したのさへ二三ある。特に工業企業がひどかつた。この恐慌はギリシヤに永らく見なかつたほどの失業を生み出し、この失業は極く頑強な性質を帯びてゐる。プロレタリアートの四分ノ一以上即ち十萬の労働者が失業してゐる。

ブルジョアジーにはかゝる情勢からの逃げ路があるか？

政府はすでに、以前公債として借入れて外國に預金しておいた資本から總額百萬磅の短期クレヂツトを與へてゐる。だがかうした問題「解決」は全く疑はしいものであつて、かういふ解決はたゞ、帝國主義的侵略の尖鋭化と、その結果勤勞大衆を犠牲とする過剰利潤の搾り出しの増進とを示すものに過ぎない。だがまだそれで全部ではない。資本主義的合理化と大規模のトラスト化、これこそは全國に鳴り渡る合言葉なのだ。勤勞大衆への壓迫をもつと強化すること、「國民の生産性」の増大、即ち勞働者階級のもつと無慈悲な搾取、——こゝにブルジョアジーは自己の救ひを求め、賣れ行きのいゝブルジョア新聞（「ヘリニコス・タヒドロモス」Hellenikos Tachidromos）は公然と聲明する。

「吾々は、保險と補助金を廢止し、勞働者を墮落させ經濟に危害を及ぼす特典を制限しなければならぬ……吾々は、手當や社會保險の救助を要求する民衆に向つて峻嚴な「否」をもつて答へることを學ばなければならぬ」。

これを讀んでも事態ははつきりしてくれない。だがこの新聞は、數日後（一九三〇年一月十六日）工業家聯盟がその覺書のなかで政府から要求したことを書いたに過ぎないのだ。その要求といふのは「吾國の工業の今日の條件の下では勞働日は十時間に延長されねばならぬ。ギリシヤ工業家聯盟は經濟大臣が提案しやうとする社會保險制度を徹頭徹尾拒絶せざるを得ない……たゞ單に新社會保險局を設置すべきでないのみならず、政府の綱領にある現存局の廢止を斷行すべきである」。

ブルジョアジーは、この方策をもつて、生産費の低下、競争能力の増進、外國市場の征服の手段だと見てゐるのである。新變革を準備したコンディリス Kondylis 將軍が、過去に於けるギリシヤの幸福の源泉（カウカサスのやうな）を包み隠さず夢みてゐるのは決して「偶然」ではない。戦争、どこよりも先づサヴェート同盟に對する戦争の準備は、ブルジョア政治のメタルの裏側なのである。

資本主義的安定化の危機の尖鋭化は、廣汎な勤勞大衆、何よりも先づプロレタリアートの活動性の増大を招來した。九萬乃至十萬の勞働者が一九二九年に各種のストライキに参加したが、これはギリシヤのやうな小國にとつては輕視すべき數字ではない。前諸年とは違つて昨年は、種々の産業部門の勞働者がストライキした。昨年のストライキ闘争は際立つて政治的な色を帯びた。他方に於て租稅反對、農奴形式反對、土地分配賛成の農民運動は、最近時にブルジョアジーにとつて威嚇的な度合に達した。武装蜂起にまでなつたものがある。

小ブルジョアさへも騒ぎ出してゐる。この點では、今日もう二ヶ月も續いてゐるアテネ大學の學生ストライキが注目すべきものである。

一般に一九二九年はギリシヤに於ける勞働者農民運動の昂揚の年だつた。吾々がまだやつと恐慌の初期にあること、またこの恐慌が極く近いうち更らに一層尖鋭化するだらうこと、これはいづれも疑ひのないところだ。もし今金融資本が、今までギリシヤでは見られなかつたほどの合理化カムパーニヤの先端に立つて、新たに數萬の勞働者を街頭に投げ出すとすれば、またもし

してゐる。この事實は經濟市況を一般的原因とするものであるか？ 有價證券のこの著しい下落はパリ市場に一般的根柢を持つてゐるのであるか？ さうでないことは明かだ。有價證券のこの下落は確かにフランス資本家の内部の動搖と不安定との現はれである。パリ取引所で、有價證券が二五%も暴落したのは、フランス・ブルジョアが經濟的見透しに面して自信のない證據だ。然らばフランス・ブルジョアジのこの不安定はどういふ事實に現はれてゐるのか？ この不安動搖の原因はどこにあるのか？

二 産業に於ける一般的停滯

最近數週間に於ける産業の一般的情勢の特徴は次の通りである。一九二八年には繁榮が上昇しつゝあつたのに、今ではすでに一般的停滯が現はれて來た。そしてこの停滯は二三の産業部門にとつては下向の開始、即ち著しい沈靜の開始となつてゐる。従つてフランスに於ける一般の生産指數は、一九二八年の急速な成長の後を受けて、一九二九年九月末には一九二八年三月と同じ高さになつてゐる。二三の産業ではもう後退が著しくなつてゐる。

例へば纖維工業の生産指數は一九二八年には九九だつたのに、一九二九年九月には八七に落ちてゐる。纖維工業からはこの外にも多くの數字を引用して、事實上不景氣時代に入つてゐること、及びすでに停滯が見えてゐることを示すことができる。纖維工業の労働者は、繁榮時代には十時間まで就業してゐたのに、今日では纖維工業の或る部門では一週二十時間、他の部門では一日七時間しか就業してゐない。

てゐない。

皮革工業の生産指數は、一九二八年には一三〇だつたのに、一九二九年には一〇二に下つた。機械工業は一般に停滯してゐる。或る部門、どこよりも先づ作業機〔の部門〕では輸出が著しく減退してゐる。

自動車工業では、フランスからの自動車輸出は最近二年間に絶えず減退し、最近數ヶ月間には自動車工場の生産は著しく制限されてゐる。これは何よりも先づ失敗の結果である。といふのは、フランスで自動車工業の生産——高級車及び貨物自動車の製造——の根柢を築いた企業が、完全に失敗したのである。自動車工業ではたゞ輸出の減退が起つてゐるばかりではない、二三の外國市場及び植民地市場でフランス自動車工業が排斥されてゐる。例へば最近モロッコの市場では、『デネラル・モーターズ』がフランス工業を驅逐してしまつた。パリ經濟區で大衆解雇が始まつたことは、自動車工業にとつて特別な意義がある。シトロエン Citroën やルノー Renault のやうな一流の自動車經營が約一萬人の労働者を解雇した。ルノーでは二萬五千人のうち六千人、シトロエンでは二萬八千人のうち四千人だ。

フランスにはまだ大衆失業があるとは言へないにしても、この生産の沈滯に基いて、特に自動車工業と纖維工業とは一種の部分失業があるとは言へる。こゝでは短時間労働週及び短時間労働日を行つてゐるのだ。この見地から見るとパリ經濟區には面白い數字がある。パリ區には失業はない。だが

求人数が非常に減少したのである。周知の通り一九二八年はフランスにとつて一般に労働力の不足が特徴となつてゐた。ところが労働局の発表によると、セーヌ縣では一九二六年六月に求人数が求職数よりも二萬人多かつたのに、一九二九年十一月末にはこの二萬人の過剰求人数のうちたつた五千人以上しか残つてゐない。これも亦た生産の沈滞が作用し始めた證據である。

そればかりではない。フランスの貿易差額は絶えず入超になつてゐる。貿易差額は、一九二八年には二十億フランの出超を示してゐたのに、一九二九年の最初の數ヶ月間に百億フランの入超になつた。フランスの卸賣物價指數は世界市場物價に追いついた。

これらの事實の總體は、目下のところでは現實の經濟恐慌になつてはゐない。だがこれは、フランス帝國主義にとつてのつびきならない經濟恐慌の諸徴候が、合流してゐることを意味するものだ。

三 フランス資本主義の特殊性

ではなぜこれらの諸徴候はすぐに深刻な一般的恐慌にならないのか？ その理由は、資本主義フランスの國民經濟が依然として二三の特殊性を持つてゐるからだ。この恐慌の始まり方がやゝ特異なるを理解するためには、この特殊性を強調しておかなければならない。第一に、フランス資本主義は莫大な資本を自由にすることができ、最近特に注目すべき特徴は、フランス・ブルジョアジーが未曾有の資本輸出をやつたことだ。第二に、最近金保有高が著しく増加した結果、フランスは金保有高の點では世界第二位になつて、アメリカ合衆國のすぐ次になつた。最後に、フランス資本主義は、國內市

場及び植民地市場を發展させるために非常な努力をやつてゐる。

だがフランス・ブルジョアジーとその政府とがやつてゐる市場消化力擴張の努力の意義を、過重評價してはならない。なぜか？ フランス政府の計畫、所謂「タルデューの五ヶ年計畫」は、初めのうちこそ莫大な國家事業や植民地開拓の努力やフランス市場の消化力やを強化するだらうが、これらすべての努力は結局フランス帝國主義の前途に横はる諸矛盾——解くことのできない諸矛盾——を益々深めるばかりなのだ。これらの努力は、全國的な規模で生産装置を擴張し機械設備を改善することを目標としてゐる。だがこれらはみんな市場擴張の人工的手段だ。それによつて結局は、生産力の發展と外國の競争に對する鬭争能力との間の矛盾が、いやが上にも成長するのだ。だからフランス資本主義は、幾らかの有利な特殊性をもつてゐるにしても、また困難を増大させる不利な特殊性をもつてゐるのだ。

四 農業恐慌

これらの困難のうち一番重要なものは農業恐慌である。この恐慌の本質的な原因は、工業産物と農業産物との價格の缺型の開きにある。最近に至つてこの恐慌は一層激化した。それは、フランス工業がもつと安く輸出しもつと高く國內で賣ることができるようになり、生産費の切下げに夢中になつてゐるからである。フランス工業は、輸出の條件を改善して國際的競争に於ける鬭争條件を有利にしようとてゐるのだ。だから一方では農業機械、肥料、等々を生産する工業トラストが益々強化して、農民に

向つて價格の獨裁をやつてゐるのである。

フランス農業恐慌の激化は次の諸事實に現はれてゐる。特に穀物が生産費以下で販賣されてゐる。この現象は葡萄酒の販賣にも見られる。更らにホップ恐慌。大生産者のやる牛乳加工業の恐慌。これは牛乳の買入價格を引下げる。すべてこれらの現象は、ブルジョアと大トラストとが貧農に與へる壓迫を通じて、農民階級を益々ひどく分化させ、小所有者をプロレタリア化する。この恐慌の特徴は、貧農の不満を高度の運動に轉化させることにある。

五 恐慌對策と戰爭準備

この問題について言つたことを總括しやう。フランスにはまだ一般的經濟恐慌が來たと言ふことはできないが、吾々の目の前に現はれてゐるすべての事實を、他の諸國——フランス帝國主義の直接の競争者、例へば合衆國、ドイツ——と比べて見れば、これらの徵候は不可避的に激化して、近い將來に經濟恐慌が事實上勃發するだらう。これは豫測するに難くない。フランスは今、最も深刻な安定化恐慌の新段階に入つたのである。安定化恐慌は、經濟生活が新しい諸矛盾の時期に入つたことの特徴的な現はれである。

フランス・ブルジョアは恐慌の激化を防止する對策を發見したつもりになつてゐる。だがこれらの對策は反つて恐慌の激化を促進するだらう。

一、工業及び機械設備に於て一般的合理化が進行中だ。この合理化はフランスにとつて次のことを意味する。賃銀の切下げ。經營内の搾取の増大。解雇、二二三の工業では大衆解雇。及び大衆運動——これは今でさへ非常に深刻で強烈だ——の發展と擴大とを更に有利にするすべての事實。二、國內市場及び植民地市場の擴張は一生産裝置の擴大に基いて行はれてゐる。生産裝置の擴大は矛盾を強化させ、矛盾の強化に基いて恐慌が發展する。三、市場の侵略、關稅壁の建設、關稅戰爭。關稅戰爭は生長して帝國主義戰爭のための強度の準備に轉化する。しかも帝國主義戰爭——何よりも先づ、サヴェート・ロシアの市場を侵略しやうといふ卑劣な企てに基く反サヴェート同盟戰爭——のための、イデオロギー的及び物質的準備の促進だ。

フランス共産黨中央委員會は、最近の集會に於て一般的情勢を右のやうに特徴づけた。

六 労働者運動の躍進

次に、この情勢の評價の範圍内で、吾々がフランス・ブルジョアにとつての主要な矛盾及び困難と考へるところのものを述べやう。それはフランス労働者運動の新しい躍進だ。吾々の運動内の日和見主義者共は、労働者運動のこの新しい躍進を見まいとしてゐる。フランス労働者階級のこの新しい闘争とこの亢進した闘争欲求とを、彼等日和見主義者共は、正常な、通常の、傳統的な、等々の現象だと稱してゐる。それは外でもない、フランスの日和見主義者共は——よそでも同じことだが——資本主義的恐慌とその見透しとの重大さを絶対に否定してゐるからだ（日和見主義者共がこの情勢をどう評價してゐるかは、すぐあとで詳しく述べやう〔この部分はこゝに用ひた原文では省略されてゐる〕）

る)。だが吾々は、労働者階級のこの亢進した闘争意志を、恐慌の徴候の一部、恐慌發展の一部だと考へる。だからこの運動の見透しについて吾々の見解は彼等とは違ふのだ。

フランスでは最近——殊に一ヶ月以來——労働者階級の状態が著しく劣悪化した。諸経営内で行はれた合理化の方法、形式、範囲は賃銀問題に關しても他の労働條件に關しても、フランス労働者階級の状態を未曾有の程度に劣悪にした。フランスでは生計の一般的低下が起らうとしてゐる。それは賃銀の購買力の低下から見てさうであるばかりでなく、生計費の騰貴から見ても亦たさうなのだ（吾々の同志ヂットン Gitton は、赤色労働組合インターナショナル執行局へ提出した報告のなかで、次のやうな面白い數字をあげてゐる。即ち官廳數字によると、フランスに於ける生計費は約四四%騰貴したのに、種々の地區の賃銀の低下〔原文では騰貴〕は三%、四%または七%にさへ達してゐる）。

だが何よりも先づ注目すべきことは、生計費がこんなに上つて賃銀がこんなに下つたのに比べて、「労働」力及び精力の消費が増大したことだ。この増大は合理化の激化といふ條件の下に開始された。フランスの諸経営では、これほどの増大は未曾有のことだ。だからこの時期に作業災害が激増したのは當然だ。作業災害件数は今年（一九二九年）中に二百萬以上になつた。

フランス労働者階級のこの物質的狀態に當面して、いかなる大衆運動が行はれてゐるか？ 運動の一般的規模に關して、こゝにすでに引用した數字の意義をもう一度強調しておかう。一九二八年七月から一九二九年六月〔原文七月〕までに罷業者數五十萬、罷業件數千四百。一九二九年七月から一九

二九年十一月までに罷業者數十二萬、罷業件數三百五十。即ち一年半の間にフランスでは約七十萬人に近い労働者軍が運動に加はつたのである。極く一般的に言つて、これは明かに新しい事柄だ。そして何よりも先づ、これらの——數十萬のフランス労働者をその渦中に巻き込んだ——闘争の持つた特徴が新しいのである。

七 労働者運動の新しい特徴

この運動の一般的特徴は、賃銀値上げの闘争、及び労働條件悪化反對、資本主義的合理化反對の闘争であつた。だが最も重要な特徴は、フランス労働者の闘争水準の一般的向上である。その原因は階級意識の向上にある。そして階級意識の向上の原因は更に次の事實にある。即ち罷業労働者の敵は企業者だけでなく、すべての勢力の同盟軍、即ち國家、改良主義者、企業者のシンデケート〔カルテル〕及びトラスト、等々だつたといふ事實がこれである。

だがこの一般的特徴を述べただけでは足りない。次に、フランス労働者運動の變化をもつとよく理解させることができるやうな二三の例をあげやう。

最近數ヶ月間に全く典型的な二三のストライキが起つた。その一つはウルリツヒ・サン・レヂエド（Rich St-Leger）に於ける金屬労働者の罷業だ。このストライキの經過中、この地區のフランス労働者たちは、非常に激烈な闘争を敢行したばかりでなく、初めてフランス労働者運動の二三の悪い傳統を打破した。即ち労働組合闘争の合法主義が拋棄されたのだ。このストライキは熔鑛爐で起つた。元來

義的デモといふ特徴を持つてゐた——の時には、一方では社会主義黨と官憲との密接な結託をはつきりと認めることができた。といふのは、官憲が社会主義黨の黨員證を検査した（即ち社会主義黨の黨員證を見せればデモをやつてゐる廣場へ黙つて通した）からだ。だがパリの労働者は、こゝではデモの時より猛烈に反撥した。即ちシャムビニーに於ける労働者の闘争は、社会主義者のデモを妨害して、これをパリ近郊の労働者の街路占領に轉化してしまつたと言ふことができる。

まだ例がある。最近になつて壓迫の諸方策と政府の陰謀とに對して向けられた政治的ストライキが經營内で始まつてゐる。パリ近郊の或る經營——レヴィ Levy 工場——では、政府の陰謀とファシスト的壓迫方策とにのみ向けられた一時間の抗議ストライキが行はれた。即ち數日前、この經營の労働者は終業時間より一時間早く仕事を抛り出して集會を開き、そこで決議をやつた。その決議は、ファシストの壓迫に對する闘争、××××××對する闘争、パリの一労働者が××××××××××逮捕されたことに對する闘争、を言ひ表はしてゐた。パリ及びパリ近郊に於て幾つかの工場内の聲明が行はれた。アルストム Alsthom 商會の一つの大きな職場では、被逮捕労働者クレマン Clément を釋放しろといふスローガンを掲げて二日に亘るストライキが行はれた。

だが労働者階級のこの躍進と闘争意志とを最も良く特徴づけるものは、吾々の機關紙「ユマニテ」を守れの大衆運動だ。この機會に吾々は初めての出來事に出會つた。といふのは、「ユマニテ」と××××××××いふ大衆運動は、労働者階級の現實の動員を特徴としたばかりではなく、更に全く新しい特色を示した。即ち労働者階級が自發的に、彼等自身のイニシアティヴから作られた形式で組織化されるといふ傾向がそれだ。最初の「ユマニテ防衛委員會」は労働者自身のイニシアティヴに基いて成立した。また更に強調しておくべきことは、パリ經濟區の諸經營では、黨の独自の活動とは無關係に、讀者名簿に基いて労働者の團體が四百以上もできたことである。今では數百のユマニテ防衛委員會があつて活動してゐる。

吾々は更にこの運動の例と徴候とをあげることができる。即ち最近行はれた補缺選舉がそれだ。或る場合には、××××××自分では熱心な政治的カムパニーを遂行しなかつたのに、得票が非常に増加した。例へばパリの近郊デュヌヴィリエ Genevilliers では、五月の選舉の時よりも六百票多く獲得した。更に仲裁々判所の選舉をあげておかう。この時には革命的労働組合が多くの成果と著しい進歩を示した。

八 總括

以上を總括すれば、この運動の特徴は次の通りだ。即ちフランスの労働者階級は、戦争直後以來初めての大躍進をやつたのである。さうだ、フランス労働者階級のこの新しい躍進は、吾々の運動のなかでは空前のことだ。同志モロトフが吾々の十月派遣員に答へて、次のやうに言つたのは正しい。曰く、フランス共産黨は最近に於て二三の進歩を遂げたらうが、フランスの労働者はもつと大きな進歩を遂げた。彼等は全體として、フランス共産黨よりももつと高度の闘争水準に達してゐる、と。

だから吾々は知る、闘争運動は絶えず高まつて、労働者運動は現實の躍進を遂げたことを。この時こそは經濟恐慌の最初の諸徴候が現はれ始めた時期なのである。

二 フランス恐慌の進展

一 世界恐慌のフランスに於ける諸結果 (パリ通信、一九三〇年三月十八日)

數日來パリの取引所は非常な不安に陥つてゐる。大藏大臣ポール・レーノー、Paul Reynaud の「H. コー・ド・パリ」Echo de Paris 編輯者との會談によつて、この不安は一層激化した。

レーノーはこの會談のなかで、市況の不振は『世界恐慌』の結果だ、とあつさり話してしまつた。これだけで、土曜日の取引所に猛烈な變動を起させるに充分だつた。三分利附國債は七十サンチーム方下落した。

尤もその間に、市況安定の企ては手を盡して試みられた。レーノーはもつと説明をやつて最初の言明を緩和しやうと焦つた。だが金融新聞は、市況の危機——外に言ひやうはない——と他の多數の價證券の値下りとに面しては、その不安を包み隠すことはできない。世界恐慌の結果は遂に、産業、政治生活、及び財界に益々強く波及して來たのである。

繊維工業、奢侈工業、自動車工場、等々は非常な打撃を受けた。消費の減退は益々はつきりと現はれてくる。産業はこれに耐えられないのだ。減税の約束とか、一大官業の計畫とか、一言で言へば數週間前にはタルデューの『強氣の時代』を支持するのに公然と役立つたものが、すべて今度は全く別

な目で見られることになつた。

或る人々はすでに『フランスの財政は危機にある』と言つてゐるが、これは次のやうに解すべきだ。即ちこれらの人々は、次のことを主張してゐるのだ。曰く、三年に亘つて廣汎な消費者層に非常な壓迫を加へた租税政策で積立金を累積して來たのだ、だから今更タルデューの新しい約束(減税の聲明)なんかでこの積立金を減らして貰ひたくないものだ。

議會の方面では、情勢は大して變つてゐない。内閣は相變らず確實な多數を擁してゐない。内閣はどうか持ち耐えてはゐるが、それも信任問題の提出(すでに幾度も政府側が少數になつたことがあつた)を食ひ止めてだ。指導部のなかに混亂と動搖とを認めさせるやうな事實が少くない。昨日(三月十三日)は上院海軍委員會委員長上院議員ケルデエゼック Kerguezec は、ロンドン會議へのフランス代表派遣員に参加することを拒絶した。今日は議會の財政委員會が新内閣の三十四人の大臣と次官との支拂ひに必要な支出科目を拒否した。

これらはすべて次のことを暗示する。即ち豫算は規定の期間内に通過しさうもない。従つて——四月一日まで會計年度を延長してゐるのに——再び假豫算に逃げ路を求めなければならぬだらう。

豫言を避けて言へば、これらすべての事實の示すところはかうだ。即ちフランス帝國主義の困難は非常に大きい。またフランス帝國主義は近い將來に於て、すべてのブルジョア諸黨と社會ファシストとの助けを借りて、恐慌からの逃げ路を求めなければならぬだらう。恐慌は成長しつゝある、そし

て益々重大な社會動搖を惹き起しつゝある。

二 フランスに於ける經濟恐慌の徴候 (ベルリオ、一九三〇年四月十六日)

日和見主義——吾々の黨はこれに對して攻撃を集中しなければならぬ——の主要特徴の一つは『例外主義』の理論である。これはラヴストーン一派が合衆國についてでつち上げた理論にそっくりだ。吾々の同志のうちには、フランスは全然特殊な地位を占めてゐて、世界恐慌の仲間に入らないですむのだと主張する者がある。彼等の主張はかうだ。曰く、この國には失業者がなく、主要産業部門はまだ完全に生産を行つてゐるし、金融はこの上もなく緩慢だ。だから今日ドイツ、ポーランド、アメリカで起つてゐるやうなことは「フランスでは」起りさうもない、と。この見地から、すべて黨の政策に反對する立場が出てくるのは當然なことだ。彼等の考へによると、黨のスローガンは『先走りし過ぎる』し、黨の要求は大衆の精神状態に『相應しない』といふのだ。

だがブルジョアたちはそれほど自信を持つてゐない。彼等の新聞は久しい以前から警告の叫びを發してゐる。タルデュー Tardieu が「一九二九年」十一月に第一次内閣を組織した時にはまだ、彼はそれを繁榮の内閣だと宣傳してゐたが、最近の内閣危機（一九三〇年二月——三月。第一次タルデュー内閣の倒壊）シヨータン内閣の成立及び倒壊、第二次タルデュー内閣の成立、『年報』八輯一七〇頁譯註参照』の時には全く調子が違つてきた。シヨータン Chautemps は『經濟國難』とか、『經濟恐慌は工業にも農業にも現はれてゐる』とか言ひ出した。タルデューさへ彼の聲明書のなかで公式に恐

慌を承認した。數日後、彼の大藏大臣ポール・レーノー Paul Reynaud は、取引所に於ける暴落をこの關係から説明した。『市況の裏には何よりも先づ經濟恐慌が隠れてゐる。そしてこの經濟恐慌は、人々が信じてゐるよりは遙かに重大なものである』と。三月二十一日にフランス生産業經濟聯盟の大會で、その理事長デュシエヌ Duchêne 氏は、聯盟員の悲觀論の動機を全部計へ上げて、特にかう強調した。

『悲觀論者は、大多數の諸國に起つてゐる恐慌状態が吾國をも侵すであらうとか、また甚しきに至つてはすでに吾國を侵してしまつたとか考へてゐるのでありませうか？ 異つた市場間の相互依存性がそんなに密接なものであると考へてゐるのでありませうか？』

最後に『タン』(フランス政府の機關紙)のやうに、その性質上最も樂觀的でなければならぬ諸新聞は、樂觀材料を探さうと無駄骨折つて、そのあげく當らず觸らずに『目下のところ見透しは不確かである』と結論しなければならぬ破目に陥つてゐる。

勿論フランスは切迫した破局に臨んでゐるわけではない。マヌイルスキーは書記局への報告のなかで、恐慌前の「高」景氣にある國々のなかへフランスを計へた。これは正しい。だが現在の情勢に於ては、經濟恐慌の成熟のすべての要素が現はれてゐる。そしてすでに全く疑ひのない諸特徴をそのなかへあげることができる。すでに深刻な農業恐慌と、金融市場の恐慌とが始まつてゐる。小麦生産者は捨て賣りをやらなければならぬために、ひどく苦しんでゐる。「小麦価格は」五十キロ

グラムにつき一年前には百五十五フランだったのに、今日では百三十フランに下つてゐる。然るに農民が戦前と同じ状態に置かれるためには、百七十フラン乃至二百フラン支拂はれなければならぬのだ。政府のすべての方策はこの事實に對して無力だ。消費が減少したのに生産が増加した。フランスでも世界でも收穫が良好なのだ。葡萄の豊作は實際に破局を意味する。といふのは、何よりも先づ北アフリカ植民地からの輸入が増大したので、毎年價格が半分も下ることが珍しくないのだ。これは南部四縣——こゝでは「葡萄の」——單一耕作を行つてゐる——の葡萄の小栽培者の破滅を意味する。この恐慌は一九〇七年の恐慌と同じ位重大なものになるだらうと豫測されてゐる。一九〇七年のときには至人口が蜂起して巨大なデモを行つたが、残念なことに革命的指導がなかつた。

取引所では、大銀行が政府の希望通りに買方に廻つて防戦したのにも拘はらず、大混亂に陥つた。一般指數——收益率を異にする三百種のフランス有價證券から成る——は、一九二九年二月に五四八昨年全體の平均が五〇七だったのが、今年の二月には四七九に落ちた。取引所取引税は、一九二九年の最初の二ヶ月には一億二千三百萬フランだったのが、一九三〇年同期には六千五百萬フランしかなくなつた。産業株は、不人氣のために客足が遠退いた客筋は有價證券の下落には深い根柢のあることを覺つて、確定收益付きの社債へ乗り替へた。

國內生産の全體にとつて、まだ顯著な不景氣こそ現はれてゐないが、フラン安定化以來不斷に續いた上向の局面はもう終つて、停滯の局面が始まつたことは確かだ。官廳發表の一般指數は、一九二七年平均一一〇から徐々に絶え間なく上つて、一九二九年平均は一二七、同年六月は一四一になつた。だがそれ以來大體一四〇を最高値として、殆んどこれより上ることはなかつた。二三の部門は今日既に非常に苦しんでゐる。奢侈工業はフランスの輸出に於て重要な地位を占めてゐるのだが、アメリカの顧客を失つて危険に瀕してゐる。繊維、被服、及び靴、等々のやうな大量消費物の生産は、六ヶ月以上も前から急速に低下してゐる。自動車工業は著しく『弛緩』を示してゐる。

完全失業は言ふに足りない。市役所に登録された失業者は約千六百人だ。だが自動車、硝子、繊維靴等々で解雇が行はれた。被解雇者の大部分は數日または數週間あぶれた後に他の部門でまた口を見つけた。だが部分失業が比較的増大してきた。例へば裝身具工業では一週間平均三十時間、絹織物工業では三十五時間乃至四十時間しか就業しない。まだ外に一週間完全に就業してゐない労働者が何萬人とあることは確かだ。

明かに恐慌は始まつたばかりだ。だが明日はどうなるかについては、非常な不安が低迷してゐる。農村の過少消費は、農業機械、肥料、金屬製品の購入の減少となつて現はれた。これは工業の活況を縮小させざるを得ない。デュシマン Duchemin 氏はかう言つた。

『完成商品の價格は毎月下落し、外國製完成品の輸入は規則的に増加する。これによつて見ればフランス工業は必死になつてその地位を衛らうとしてゐるのに拘はらず、その鬭争は漸次に困難になりつゝあるのだ』。

フランスの價值下落によつてフランスの生産者は輸出獎勵金と同じ利益を受けてゐたのだが、事實それもなくやつてしまつた。一九二八年の初めに、國産品の指數は上つて五七五になつた。當時輸入品の指數は六六四だつた。然るに今では位置が全く逆になつて、輸入品は五〇九、國産品は六一一である。

原價高の影響はどの部門よりも先づ自動車工業に於て感ぜられてゐる。この部門では合衆國が非常に低い價格で輸出しやうと大努力をやつてゐるのだ。この工業の生産物に對する關稅を高率に引上げやうとして、廣汎な鬭争が行はれてゐる。反對に、外國では保護關稅の増徴があると嵐のやうな抗議が起る。例へばアメリカのレーズ關稅の引上げ及びオーストラリアの一般的稅率引上げの場合がさうだつた。そのくせデューネーヴ會議で、關稅休日の要求を亂暴に踏み躪つたのはフランス政府の代表だつた。彼はかう主張した、世界市場の『新しい諸條件』は、フランスをして稅率の自由を全部保留するの止むなきに至らしめた。言ひ換へれば、兇暴な關稅戰爭を行はうといふのだ。

フランスの貿易差額が一九二九年に八百二十一萬二千フランの入超を示した——その前年にはたつた二百六萬一千フラン、また數年來出超だつた——ことを忘れてはならない。勿論この入超は、何よりも先づ輸入の増加、特に原料品輸入の増加に基くものである。そしてこのことは國內市場の非常な活況を示すものだ。だがこの著しい活況は必然に生産裝置を更進させ擴張させた。これは外國貿易の有利な見透しに基いたものであるが、この見透しが間違ひであることが分つてきた。この膨脹した生産手段は、今になつて世界市場と國內市場との消費減退に當面してゐるのだ。冶金工業の大企業家連

の機關紙『工場』Dunooがこのことをよく言ひ表はしてゐる。

『吾々の鐵冶金工業は全體として、生産能力を高めるために準備を行ひ重要な作業を実施した。これは自然なことである。然るに今になつて皆現實の生産を制限せざるを得なくなつてゐる。吾々の工業が豫見した發展の可能性などは問題でない』。

言ふまでもなくフランス工業は、集積、標準化、及び合理化の速度を益々速めることによつて原價の諸要素を切り下げやうと努めてゐる。だがフランス工業は何よりも先づ、租稅を大量的に輕減すること、及び國庫餘剩金——これは非常に増大した——の全額を國民經濟に流用することを、國家に要求してゐる。なほ政府は目下、取引所Ⅱ及び商業取引諸稅輕減の綱領を準備中だし、國內生産裝置の増大及び植民地有價證券投資の増大のための廣汎な計畫を議會に提出しやうとしてゐる。だが政府は充分な用心をもつて進まざるを得ない。なぜならば政府はそこで新しい諸矛盾にぶつかるからだ。

一方では、國庫餘剩金を一般經濟に流用することは、數十億フランを新たに流通に投ずると同じことになる。それでなくてさへすでに支拂手段の著しいインフレーションが起つてゐて、その結果物價は甚だしく騰貴してゐるのだ。他面、大量的減稅を決定することは困難である。といふのは、今日すでに豫算は收支均衡が疑はしくなつてゐるのだし、その上勞働者大衆の壓迫に押されて止むを得ず採用したデマゴギー的諸方策（例へば兵士の恩給）が、最近數年度に於て數十億フランの支出を増大させるのだ。金融緩慢は著しい。だがそれは經濟的不安のために資本の用途がないことに原因してゐ

るのだ。フランスの金融状態が非常に疑はしいことは、上院に於けるヤング案の報告者シャルル・デュモン Charles Dumont 氏が次のやうな疑ひを起したほどだ。曰く、債券を一枚でも賣り出すや否や貨幣が殺倒してきて、遂には経済的困難を惹起しはしないかと！

植民地有價証券投資に關しては、五六十億フランの借款を成立させやうといふ企てがある。だが財界の専門家たちは、植民地の状態が『不安定』だから、これを實行するには充分の注意が必要ではないかと言つてゐる。吾々はこゝに、フランスの情勢の有利な諸特徴のうち恐惶亢進の主要原因の存するのを見出す。帝國主義の植民地帝國はこの種の商取引で大仕事をやつて、貿易差額の大穴を埋めるのに非常に役立たせてゐるのだ。ところが印度からコンゴまで、ガドループからマダガスカルまで、プロレタリアートの行動を優位とする革命的躍進が發展してゐる。これは、それだけでなくさへ完全な恐怖政治を一層激化させる。これらの植民地で生産される原料品及び農産物の値下りは、「植民地人民の」購買力をすでに極度まで切り下げてしまつた。

要するに、政府機關紙『タン』が書いてゐるやうに、『商工業は決定的試練の前夜にある。彼等の競争能力は數ヶ月のうちにならぬか？……明日のことは分らない』。健康回復の困難は日々に加はり、蓄積された矛盾は本國と植民地とを問はず爆發し、労働者の闘争は擴大する。そして農業全體を蔽ふ恐慌は——農業人口が常に非常に多數で、今日までのところ社會的安定の本質的基礎を成してゐるこの國では——最も重大な諸結果を惹起し得る。

これらすべては、吾々の全國大會の政治的決議の結論が完全に正しいことを證する。その結論は、要約すれば次の通りだ。

『世界恐慌はすでにフランスで顯著に反映してゐる。フランス資本主義經濟は「獨占的」地位を占めてゐるから恐慌の仲間に入らなくてすむ、と主張しやうとする意見を、吾々は斷乎として拒否し排撃しなければならぬ。世界恐慌は發展し、諸帝國主義間の競争は激化し、慢性農業恐慌はこの時期に於て特に尖鋭化する。更にフランス労働者大衆は革命的躍進を遂げ、貧農階級の不滿は増大し植民地人民の闘争は激化して暴動化しつゝある。これらすべては、最も確實な當面の見透しとしてフランス資本主義の經濟的及び一般的危機が擴大された基礎の上に激化するといふことを確かめるものである』。

第二 イタリアの情勢とイタリア共産黨當面の任務

(目下の經濟恐慌) (ガルランデイ、一九三〇年二月五日)

一 恐慌の開始

最近になつて國際新聞界はイタリア恐慌に非常な興味を持つてゐる。同時にファシストの新聞は、イタリアでは外のどこよりもうまく行つてゐるのだといふことを立證するのに夢中になつてゐる。

イタリアの情勢をもつとよく理解するためには、數年前非常法の成立した時まで遡らなければならぬ。一九二六年末に於ける恐慌の傾向は、要約すれば次の通りだつた。

a 産業活況の一時期——これは通貨膨脹の結果だ——の後を受けて、イタリア經濟は再組織化の時期になつてゐた。

b 生産の合理化と『アメリカ化』との最初の徴候が見えてゐた。これらはプロレタリアートの擷取の増大を伴つた。この時分から労働賃銀に對する強烈な攻勢運動が開始され、失業は目が廻るほどの勢で増加した。その時は産業活況の『中絶』の前だつた。そしてこの中絶のなかに、既に新しい時期の諸要素があつた。新しい時期とは、『大體』、國際的規模に於て『第三期』と稱する時期に相當する。

當時イタリア經濟内で進行中だつた諸變化は非常に重要である。百億リラ以上が生産に投資された。その一部は生産装置の再組織化(新式機械の据附等々)に用ひられ、他の部分は流通手段に注ぎ込まれた。これは、一九二六年末に行はれた國債の強制整理の結果、流通手段の資源が非常に逼迫してゐたからだ。この總額のうち一部(約六、七十億リラ)は、イタリア資本家が外國(イギリス及びアメリカ)資本家から借入れた。他の部分は、賃銀率の切下げによつて労働賃銀のなかゝら捻出された。この賃銀率切下げは、一九二七年に産業家連によつて主張され、政府によつて實行されたものである。

生産装置の『再組織化』の結果はどうだつたか? 何よりも先づ強調しなければならぬのは、この『再組織化』が非常に小規模のもので、ほんの二三の産業部門で、しかも部分的に行はれたに過ぎないことだ。即ち作業合理化制度(Bedou-システム Bedou [Bedeau] System)を採用するに必要な限りでだつた。イタリア資本主義の有機的組成は、大規模な『再組織化』を許さなかつたのだ。それでも生産装置はそこゝで發展し、技術的進歩を利用し始めた。その結果は、イタリア經濟の古い諸矛盾の尖鋭化と深刻化とであり、新しい諸矛盾の發生と増大とだつた。

二 重要産業部門の合理化の發展

次に二三の最も重要な生産部門の發展を考察しやう。

電氣工業は最近數年間に長足の進歩を遂げた。電力生産工業への投資は、一九一四年には五億五千

九百萬リラだつたのに、一九二六年には六十二億六千萬リラに達し、一九二八年には百億リラに上つた（他の計算によると、一九二七年に百十七億リラだつた）。電力生産は、一九二一年には三十億六百萬キロワット時間だつたが、一九二八年には九十億キロワット時間に上つた。発電所の生産能力は、一九二七年には二百五十萬キロワットだつたが、一九二八年には三百五十萬キロワットに上つた。工業家の作つた電気工業發展綱領は、今後五ヶ年間に生産を二倍にする豫定である。イタリアには石炭がないので、電気工業の發展は「イタリアを外國の石炭から獨立させる手段と」考へられてゐる。だから電気工業は獨占價格政策を遂行し、國家はその發展を助成してゐる。この價格は非常に高い。なぜならばこの工業は外國資本に高い利子を支拂はなければならぬし、生産に投資された莫大な資本の消却に巨額を要するからだ。だが他面、発電所の生産能力は、實際の電力生産高の數倍である。電力一單位の費用は初めから非常に高く、熱力一單位の費用よりもずっと上だつた。技術者の主張によると、発電所をもつとよく利用することができれば、なほ約三十億キロワット時間を産出することができるさうだ。発電所の生産能力は一九二九年以來不斷に上向してゐるのに、電力生産高はいつも生産能力より低い。

電気工業と並んで最近數年間に電気技術と電気化學とが非常に發展した。電気冶金も比較的重要な進歩を遂げた。今まで輸入されてゐた多くの特殊金屬が、今日ではイタリア國內で生産されてゐる。アルミニウム及びその副産物（デュラルミン）——これらは今日の技術にとつて典型的な金屬だ——に

對する國內需要が一九二九年にはイタリア産業によつて完全に滿されたばかりではなく、これらの金屬の過剰生産を輸出する市場を見出すといふ問題が切迫して來た。これは重要な現象である。

化學工業は四十億リラ以上の資本を持つてゐる。この工業には十萬人以上の労働者が就業してゐてその生産能力は二十五萬馬力に達する。政府はこの産業部門に非常な注意を拂つてゐる。なぜならばこの産業部門は、産業總動員計畫に基いて建てられた政府の戰爭準備綱領と密接な關係があるからだ。化學工業會社「モンテカティーニ」Montecatini は生産を獨占する縱斷トラストである。このトラストの有する設備は、國內市場の需要を完全に滿した上で、なほ二五%乃至三〇%の過剰生産能力を持つてゐる。

銑鐵Ⅱ及び鋼鐵生産は——一九二九年七月から九月までの間若干の動搖はあつたが——増加してゐる。

銑鐵Ⅱ及び鋼鐵生産 (單位噸)	銑鐵	鋼鐵
一九二三年.....	四三六、七五四	八四六、〇八五
一九二二年.....	一五七、五九九	九六三、五九六、五七九 (二)
一九二三年.....	三三六、三三三	一、一四一、七六一
一九二四年.....	三〇三、九七二	一、三五八、八五三

四 西南ヨーロッパ

一九二五年……………	四八、七九	一、五二、〇〇〇
一九二七年〔一九二六年〕〔一〕……………	四八、一〇〇	一、七二、〇〇〇
一九二八年〔一九二七年〕〔一〕……………	五〇、七〇〇	二、一〇〇、〇〇〇
一九二八年(最初の十ヶ月)……………	三九、七九	一、六〇、九六六
一九二九年(最初の十ヶ月)……………	五三、七四	一、八二、三一九

〔一〕 佛譯による。

銑鐵Ⅱ及び鋼鐵生産のこの急速な速度は、國內消費即ちイタリア國內の全屬工業の消化力(金屬製品及び半製品)の速度と歩調を共にしてゐない。そればかりではない。最近六年間に國內市場の消化力は、一八%即ち二十萬噸だけ減少した(一)。

(1) ヴァルター『經濟的見透し』G. Martara, Perspective économique 佛譯から補ふ。

三 合理化の諸結果

これらの一般的計數は種々の見地からもつと立ち入つて考察されなければならない。

第一に、産業の再組織化と合理化とは集積過程を伴つた。この過程は非常に急速に進行し、全く特徴的な形式を取つた。集積の進行につれて小經營は破産した。生き残つた小經營は、程度の差こそあれいづれも大工業の勢力範圍に落ちて行つた。

一九二七年に、鑛業Ⅱ及び化學工業トラスト「モンテカティニー」は、合計一億一千萬リラの資本

を擁する十二の會社を新たに併合した。「モンテカティニー」は、鐵及び銅の總生産の八三%、工業Ⅱ及び戰爭用アルミニウムの總生産、過燐酸石灰の五五%(輸入製品の獨占權をも持つ)、窒素肥料の七七%、等々を支配してゐる。一九二七八年に、三會社の融合によつて「全國合同化學工場」(ACN A)のトラストが設立された。同年に水力電氣工業、金屬工業、及び造船工業の多くの企業が互に合同した(そのうちで特に重要なのは「ロズリーチ」Cosulice 聯合である。これは十個の造船所を包括し、目下デノノヴァの諸集團との間に合同の協議を進めてゐる。またオデーロ・テルニ Odeto-Termini 會社とオルランド Orlando 海軍造船所との融合も亦た重要である)。更に纖維工業に於ける融合をあげることができる(こゝでは特に人絹工業の集積が重要だ)、等々。銀行及び信用機關に於ても大集積が遂行され、小銀行を破産させた。既に一九二五年に、政府は發行權(これはもと三銀行に許されてゐた)を「イタリア銀行」Banca d'Italia の手に集積した。産業及び銀行に於ける集積過程は、或る限度まで金融資本の投機的機能と結びついてゐた。

株式會社の資本金は次の通り増加した。

株式會社資本金の増加(單位リラ)

	紙幣リラ	金リラ
一九一四年……………	五、七五、九五、五三六	五、六八、五、六、三〇二
一九一七年……………	七、三、七、四、五、九、六、一〇	六、六、二、八、四、三、二、五

四 西南ヨーロッパ

一九二〇年	一七、七六四、八六、九九四	一一、一八六、七八四、四六三
一九二五年	三三、四八一、一三、九〇七	一三、一六八、八九三、九五七
一九二六年	四〇、四四六、七五、〇八六	一三、六七七、五〇、八九五
一九二七年	四三、二五七、三五八、一九三	一四、〇六七、九四四、三四五
一九二八年(以下概數)	四三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
一九二九年(最初の九ヶ月)	四八、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一七、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

株式會社の資本金増加の速度は、生産装置の發展速度と歩調を共にしない。典型的なのは『優先株』〔議決権株〕制度である。これによつて少數資本家の一團が莫大な資本額の統制を確保するのだ。ファシスト政權の政策は、イタリア資本主義的集積のこの熱病的な速度を援助した。ムツソリーニのファシズムは、資本家權力の政治的領域に於ける最高の集積である。ファシズムが資本主義の經濟的『安定化』に向つて進む一歩々々につれて、政治的權力は益々大きく集中化されるのである。

最近に尖鋭化した決定的な諸矛盾は次の通りである。

a 種々の産業部門に於て合理化は相對的に且つ不均等に遂行された。その結果個々の産業部門及び農業に恐慌が起つた。

b 産業の再組織化と『合理化』とは、『おのづから』生産の規模を擴大し價格を下落させざるを得なかつた。その代りに國內市場の消化力は不充分だし、外國市場は外國産業の競争によつて狭められ

てゐる。しかも外國産業は、組織がもつと良好であるために容易に價格を引下げることができ。その結果多くの工場は閉鎖され、他の工場はまた生産を制限した。すべての自動車工場は恐慌状態に陥つた。一日五百臺の自動車を生産し得る生産装置を持つ、フィアット Fiat は、一九二九年には一日平均百三十臺、同年末には一日にやつと四十臺しか生産しなかつた。機械工業は全部恐慌状態にある。木棉工業も同じく非常な困難と闘つてゐる。生絲工業はイタリア産業中で一番堅實なしかも一番利潤の多い部門だが、こゝでも恐慌は絶えず激化してゐる。その原因は繭の高値と日本の競争とにある。人絹生産は需要の減退に悩んでゐる。なぜならば今まで人絹を輸入してゐた諸國が自分で人絹工業を發展させたからだ。こゝでは供給増大の結果値下りが起つてゐる。合衆國の恐慌も人絹に對して同様の作用を及ぼしてゐる。化學工業は國內市場に於ける外國の競争に悩んでゐる。鹽素、セルロイド、寫真用品等々のやうな二三の生産物に於て特にひどい。

恐慌は一九二八年に始まり(勿論間歇的に昇降はあつたが)一九二九年に續いて、激化の傾向を示してゐる。

四 労働者階級の状態

失業率は官廳報告によると一九二九年九月末に於て二十二萬八千八百三十一人、同年十一月に三十三萬七千人だつた。これは『登録』濟労働者即ち失業扶助を受けてゐる労働者の數だ。ムツソリーニは、すべての失業者(といふのは官廳報告に載つてゐるすべての失業者のことだ)は失業扶助を受け

てゐると言つた。ムツソリーニの言つたことは……間違ひない。だがもし彼が、イタリアには三十三萬七千人しか失業者がゐないといふ彼の言ひ分を、吾々が信用すると思つたらそれこそ大間違ひだ。

即ちイタリアの官廳報告は失業扶助局の名簿に基いてゐる。然るに、a、扶助を受ける資格は、解雇前六ヶ月引き續いて就業してゐた労働者に限るし、b、扶助は三ヶ月間しか與へられないのである。

だから引き續いて二ヶ月、三ヶ月、四ヶ月就業してゐた者（企業者の方では、法定扶助を支拂はなくてすむやうに、扶助資格を得るだけの期間が経過しないうちに一度労働者を解雇して、暫くしてからまた雇ひ入れるといふ手を用ひる）ばかりでなく、三ヶ月間失業扶助を受けた後にまだ生産過程へ入ることのできない者も、「官廳統計の」失業者数のなかに全然入つてゐないのだ。概算によると失業者の實数は官廳數字の二倍になるだらう。

更に進んで、就業労働者の労働條件、及び農業労働者の失業を考察しやう。農業労働者は失業扶助を受けてゐないし、従つて『登録』もないのだ。

労働賃銀を見やう。前述の通りイタリアの労働者の労働賃銀はヨーロッパ中で一番低い。國際労働局の賃銀調査によると、一九二七年中のロンドンの平均賃銀を一〇〇とすると、ミラーノに於ける賃銀は、七月に五五、四月に五二だつた。同じ時期を取るとローマの労働賃銀は各々四六及び四二だつた。ファシスト工業聯盟が、百萬人の労働者を有する二萬二千の經營の労働賃銀を調査した結果、労働者一時間當り平均賃銀は一九二八年十二月に二リラ四チェンテシモ、一九二九年一月に二リラ三

チェンテシモ、同年二月には二リラ二チェンテシモであることが分つた。この三ヶ月間に於ける労働者の月平均稼ぎ高は、各々三四八リラ八四チェンテシモ、三三九リラ一六チェンテシモ、及び三三五リラ三二チェンテシモだつた(2)。

(2) 一〇〇紙幣リラ約二〇ライヒス・マルク

吾々の黨が直接にやつた調査の結果は、ファシスト企業者聯合——これはかういふことについては野蠻な露骨さの特徴とする——の結果と大して變りがない。最もいゝ賃銀を取つてゐる労働者部類（印刷工）の月平均稼ぎ高は七三〇リラ、最もひどい賃銀を受けてゐる部類（繊維労働者）では、月に一七〇リラ乃至百八〇リラしか稼ぎのない女工がある。だがこれらの報告はもつと特別な註釋を要する。即ちなほこの外に、種々の租税、「團體費」、老年Ⅱ及び傷害保險、賃銀保險、肺結核保險、その他種々の負擔や公課——これらは常に繰返して賦課される——をこの労働賃銀から天引しなくてはならぬ。この外、労働賃銀には多數の罰俸が課せられる、これも賃銀を絶えず引下げる。

生計費についての官廳報告を見ると、生計費は一四%乃至一六%上つてゐるのに、一時間當りの賃銀は三〇%乃至四〇%下つてゐるし、月平均稼ぎ高は六〇%も下つてゐる。他面、生計指數によると或る種類の財及び給付の價格が變動してゐる。しかもこの變動はすべての財に一樣に起つてゐるのではない。例へばミラーノでは食料品の物價指數は一九二八年に九四（一九二七年六月一日の指數を一〇〇に等しいとして）、家賃指數は九二、被服指數は八三だつた。パンの價格は一キロにつき平均二リ

うだつた。だがこゝでは、大都會のプロレタリアートは小都會の工業プロレタリアートよりはよい條件で生活してゐるし、農村プロレタリアートとは比べものにならないほどよい條件で生活してゐるといふことを計算に入れておかなければならない。

五 イタリア恐慌の特殊性

これらすべての事情にも拘はらず、企業者たちは生産費の切下げを賃銀の切下げによつてのみ行はうと考へてゐる。もし利潤が妨害されれば、資本の海外流出が殖えることは明かだ。だから資本を「故郷」に留めておくためには、有利な企業に投資しなければならない。同志ヴァルガは、國際經濟情勢に關する報告一九二九年第三期四半年（『インプレコール』）「經濟批判會譯『世界經濟年報』」の報告でイタリアの情勢を判断してゐるが、彼の判断は嚴密でない（3）。この報告のなかで彼は、イタリアの資本家連は一九二八年にたんまりと利潤を得てゐると言つてゐる（『年報』7一五七頁）。彼はこれをもつて、『イタリア經濟は「本年中は、今まで外觀上さう見えてゐたよりも力強く」、ヨーロッパ景氣の一般的好轉の仲間入りをしたやうに思はれる』（『年報』7一五六頁）といふことを證明しやうとしたのだ。言ひかへれば、外觀上一九二八年以來イタリアには景氣好轉の傾向があつた、といふことになる。だが同志ヴァルガは、この結論を出す前に次のことを確かめておかなければならなかつたのだ。即ち、a、一九二八—一九二九年度に於ける産業家の利潤のなかには、生産で實現された現實の利潤と見ることでできない部分が入つてゐる。この部分は主として、從來の株主に對する新株の額面發行によつて得られたものである。この新株は彼によつて「取引所」相場で賣り放たれるか、從來の株主の間に無償で分配されるか、或はこの會社の構成部分を成す他の會社の株式と交換された。b、千六百の株式會社——その一つ一つは少くとも百萬リラの資本金を有し、合計二百四十二億六千萬リラの資本金を有する——の「一九二八年度の佛譯」利潤百分率は八・九%に達する。だが千九百七の會社が同年度中に得た利潤百分率を取ると、七・三%に下つてしまふ（『コリエーレ・デラ・セーラ』Corriere della Sera 一九二九年十一月十六日）。これによつて見ると、中小企業の利潤は減少し、大企業はもつと大きい利潤を得やうとして鬭争してゐるし、一九二八年には種々の手段でこれが實現されたことが分る。同志ヴァルガの描き出した前途洋々たる見透しは、一九二九年のイタリアの情勢とは似ても似つかぬものだ。

(3) 何よりも先づ同志ヴァルガは、イタリアの失業に關する官廳報告を信用して、一つの表——これは確かにファシスト共のお氣に入るだらう——によつて、失業は一九二八年夏よりも一九二九年夏の方が少かつたことを『證明』してゐる（『世界經濟年報』七輯一六二—一六三頁）。だが一九二八年末以來、イタリアの失業曲線は——少しの上下はあるが——一般に絶えず上昇の傾向を示してゐる。

利潤を精力的に擁護しなければならぬといふ必要が、二三の産業家群の不安の原因である。この不安こそイタリアの現情勢の特徴である。恐慌發展の條件たる諸矛盾が資本家を驅つて、外國市場に於ける競争に勝つ道を求めさせる。なぜならば國內市場が狭くなつたからだ。ところが外國市場では先進資本主義諸國の産業が——一定の限界内で——もつと有利に價格の引下げに耐えてゐるし、イタ

リアの競争はこの価格引下げによつて遮られる。更にイタリア産業を不利ならしめる事情がある。それは、イタリア産業は近代的な産業經營の新設備をやるだけの資本を持つてゐないこと、及びイタリア産業は莫大な負債と新平價による（佛譯で）通貨安定とに悩んでゐることがこれだ。イタリアが昨（一九二八）年やつたダンピング政策（これは特に農産物の輸出に於て甚だしい）は、恐慌を非常に激化させた。この實驗——これは一時的なものだと主張されてゐる（政府の諸機關紙もイタリア新聞界も、この恐慌は一時的なものだと三年に亘つて主張し續けてゐるのだ）——の結果、このやうな政策「ダンピング」は續けることができないことが明かになつた。上院議員ピレリ Pirelli は十一月十五日、或る株式會社の總會での演説のなかでかう説明した。

『特に注目致さねばなりませんのは、吾國の情勢が諸外國の生産者の競争に押されて逆轉して參つたことでもあります。逆轉と申しますのは、さきに支出を新貨幣價值に適合させやうとする時期が過ぎ去りました後を受けて、今や情勢が非常に逆轉して吾々に非常な損失を及ぼさうとしてゐることであります。今日の情勢は次の如くであります。イタリアの生産者は——工業と農業とを問はず——最小限度の利得をもつて營業を續けて行かねばならぬ状態に立ち至つてをります上に、生産者は世界市場に於てもまた國內市場に於てさへも、外國の競争に打ち勝つことができないのであります……』

今日のイタリア恐慌を景氣恐慌だと言ふことができるか？ イタリアの戦後恐慌の發展過程を辿り

さへすれば、イタリア資本主義には有機的恐慌のすべての徴候のあることを見出すことができる。そして現在では有機的恐慌の進行が景氣恐慌によつて非常に激化してゐるのだ。言ふまでもなく恐慌曲線は規則正しい性質を持つものではない。例へば前述の通り一九二四—五年度にはインフレーション政策が行はれたために生産の増大が可能になつた。だがこの有利な景氣契機は産業裝置の更新とは關係なく、また數千の小生産者——殊に農民——の窮乏化を代償として購はれたものである。他方に於てこの上向は國際情勢によつて促進された。そして生産裝置の再組織化が行はれた。だがイタリア資本主義の内的弱點は除去されもしなかつたし減少もしなかつた。そればかりではなく却つて増大した。なぜならば、生産裝置の擴張（新工場の建設、舊工場の擴張等々）が始められて、現實にはありもしない永續性と勢力との幻想を作り出したからだ。その上、利潤追求は巨額な資本を農業から株式會社へ移動させた。これは農業信用を逼迫させた。通貨の復舊及び安定化——これらは破局を救ふために必要な方策だつた——は、産業の膨脹を停止させた。丁度その時は先進諸國の産業がその生産物をもつて大量的に市場を氾濫させてゐる時だつた。イタリア恐慌の開始は、世界市場價格の下落に先立つて起つた。これは世界市場に於けるイタリア産業の地位を一段と逆轉させた。

世界恐慌——ファシズムはイタリアの大衆に向つて、彼等の窮乏は世界恐慌のためだと言つて氣休めをさせやうと努めてゐる——は、イタリア恐慌を少しも軽減するものではない。反對だ。資本主義世界は關稅壁を益々高く築いて、益々精力的にイタリア生産物を入れまいとする。かういふ状態の下

では、市場争奪闘争は資本主義にとつては死活問題だ。この闘争はあらゆる手段を盡して遂行されるだらう、——従つて戦争の手段によつても。

六 農業恐慌

次に農業を一瞥すると、こゝでも事情は少しも工業よりよくはない。

農業恐慌の原因は非常に複雑だ。こゝで絶大な役割を演じてゐるのはファシスト・イタリアの獨裁資本の政策である。この政策は數千の中小農業經營を破産させた。十年間の農業生産の特徴を示す數字によると、生産は一般に同一水準に止まつてゐて時々少しばかり活氣を呈してゐる。

農業には——殊に北部の二三の地方で——確かに或る進歩があつた。農業財産は幾らか増加した。また二三の技術的耕作による生産が十年間に増大した。だが牧畜の情勢は明かに恐慌の徴候を示してゐる。種々の畜類からの肉類生産の量は年需要と比べて六十萬ツェントナー少い。しかも人口一人當り一ヶ年の肉類消費高が二十キロ減少してだ。鶏卵は以前には輸出品だつたのに、今日では國內需要と比べて年に十萬ツェントナー足りない。一九二八年にイタリアは十一億六千八百萬リラの棉花、鶏及び鶏卵を輸入した。

農業恐慌は一九二七年に始まつた。その原因は農産物の値下り（通貨安定化の一結果）にある。この恐慌は數千の中小農民經濟を破産させた。その所有者は農業プロレタリアートの隊列を増大させた。この外に信用が逼迫し自由な資本の量が非常に縮小されたので、小農民經營への投資も減退した。

更にファシスト政策のうち次の二つの特徴的な契機が非常な意義を持つた。即ち「穀物カムパニーニャ」と『全體的（佛譯）土地改良』とがこれだ。穀物カムパニーニャといふのは、商品穀物の生産者の所得を増すための手段だといふのだつた。第二の方の契機は、土地改良組合の利益のために、銀行及び大企業者の手にまゐめ込まれてゐる中小農民から彼等の貯蓄を取り上げた。これは中小農民階級の土地を没收するための巧妙な形式に外ならない。土地改良組合理事長セルピエリ Serpieri 教授は、土地改良はおのづから現在の土地所有を排除するに至るだらうと説明した。

『穀物カムパニーニャ』（これはイタリアを外國の穀物から獨立させやうとするものだ）遂行の手段はこゝに列擧する違がない。だが特に——労働者大衆にとつて——重要なのは、穀物關稅の引上げだつた。これは一九二八年九月に三金リラ五〇チェンテシモと定められた（約四〇紙幣リラに當る）。この關稅は一九二九年五月に更に三金リラ引上げられ、従つて今日では一ツェントナーにつき五一紙幣リラになつてゐる。穀物の世界市場價格が下落してゐるので、穀物價格が一定の水準——といふのは、國家が國內の大地主にこつそり儲けさせてやつてゐる數百萬リラの過剩利得が危險に瀕するやうな水準——まで下落するのを避けやうとして、近頃次のやうなことが決定された。即ち政府は關稅率を操縦して穀物價格の下落を防止すべしといふのだ。

この政策は少數の集團を富裕にし土地所有を集積させ、また土地投機を促した。土地の収益能力は北部と中部と南部とで違ふ。南部の或る地方に於ける土地一單位當り七乃至八ツェントナーを最低限

として、北部諸地方では六―七十乃至八十ツェントナーにさへ上つてゐる。

金融資本は、信用制度を通じて、大農を肥料會社の株主にする制度を通じて、また肥料及び農業機械の販賣獨占を通じて、農業へ侵入してきた。その結果、土地は少數の資本家群の手中に集積されてしまふことになる。

租税負擔は増大した。一九二八年度までに、農業所得に對して二〇%の直接税が賦課された。リラの安定化以來、直接税の係數は不變のまゝだつた。安定化後の紙幣リラは二十七金チエンテーシモに相當する（以前には一紙幣リラが十七乃至二十金チエンテーシモに相當した）から、紙幣リラの價値は三〇%上つた譯だ。従つて租税は、一九二八年以來實質的には一九二四年乃至六年の租税と比べて三〇%上つたことになる。

農業綱領は、農村に於ける中經營の強化と大農經營の向上とを圖つて、これによつて國內工業のため國內市場を擴大しやうとしてゐる。この綱領は益々金融資本と投機資本との大事業たる實を示してきた。だがこの政策の結果は農村に於て新しい生産力を發展させるどころではなかつた。反對にムツソリーニのこの『農業化』は都市と農村との生産力の利害の對立を増大させた。元來イタリア農産物の價格は非常に高いので、ファシズムは農業恐慌を除去するためにこの冗費を節減しやうとしてゐるのだ。だが農産物の價値を決定する諸要素は多種多様であつて、これらすべてが——勞働力だけを除いて——所有者たちと國家とによつてあらゆる手段を盡して保護されてゐる。彼等はこゝに少しの

變化の起ることをも許すまいとしてゐる。機械と肥料との價格は高い（前述の通り、工業家たちは國內市場に於ける外國生産の競争をさへ打ち破ることができないのだ）。そしてこれらの價格を引下げるためには、勞働賃銀——これは二三のファシストたちの言葉によつてさへ、既に最低の生理的限界にあるのだ——をもつと切下げる外はない。以上の冗費の上に、更らに莫大な國稅、府縣稅、市町村稅が加はつてゐる。信用の資源は汲み盡された。なぜならば古い蓄積は舊債のために固定化してゐるし、新しい蓄積はまだできてゐないからだ。つまりファシズムはイタリアに於ける農業恐慌を除去することはできないのだ。

これらすべての結果は、勞役農民大衆の窮乏化と農村に於ける失業とだ。この失業は統計に載つてゐない。なぜならば農業勞働者は失業扶助を受ける資格がないので『登録』されてゐないからだ。だが推算によると農業には約五十萬人の失業者がある（4）。

（4）年々生産過程に入り込まなければならぬ勞働者大衆は、勞働市場が閉鎖されてゐたり狭小になつてゐたりするのに出喰はす。ところが工業及び農業に於ける失業者の數字はこの大衆を計算に入れてゐない。『このやうな大衆は『老年』失業者の上に更に加算しなければならぬものだ。』

企業者の言ひなり放題に何時間でも勞働する勞働者が、やつと惨めな飢餓賃銀にありついてゐる。彼等の多くは一週二三日しか就業できない。この状態から生れた農業勞働者の生活の哀話は、全くもつて悲惨なものだ。

七 貿易

三六

一九二八年末の貿易差額は七十億リラ以上の入超だつた。これは一九二七年と比べて約三十億リラの増加だ。一九二九年の最初の十一ヶ月間に、前年同期と比べて八億九千百十五萬二千七百八十三リラの入超減が起つた。これで見ると、一九二九年末には約十億リラの入超減になるだらう。この好轉は主として次のことに原因する。即ち一九二九年は豊年だつたので、秋の最初の數ヶ月間に穀物の輸入が少なかつたこと、生果實、巴且杏、罐詰トマト、オリーブ油、人絹、生絲、綿織物、毛織物及び絹織物の輸出が増大したこと、これがこれである。だが輸出金額は、一九二九年には前年よりもその實物容積と比べて相對的に低かつた。

一九二九年の最初の六ヶ月間には、一九二八年同期と比べて九%だけ多くの商品が輸出された。だが一九二八年の輸出商品の金額は、一九二九年と比べて約五%高い「だけだ」。これは世界市場に於ける價格の下落に基いてゐる。

八 ファシズムの危機とプロレタリアートの擡頭

工業恐慌も非常に激化してはゐるが、農業恐慌の方が情勢にとつて決定的だと言ふことができる。なぜならばイタリアは主として農業國だからだ。資本家は混亂してゐる。ファシズムの中央機關紙「イタリア人民」Popolo d'Italia 一九二〇年一月一日の論説のなかに、『困難な時代』が來た、とはつきり言ひ表はしてある。だがその筆者は、恐慌は世界至る所で荒れ狂つてゐる、そしてこれは組織化恐

慌だ、と言つて自ら慰めてゐるのだ！ だが問題は、イタリアが他の資本主義諸國の恐慌を利用することができない、といふ點にあるのだ。資本主義の發展は不均等だ。従つて恐慌の防衛及び克服「佛譯によつてゐる」の可能性も亦た不均等だ。資本主義諸國の掛引きの可能性は種々様々だ。世界恐慌はイタリア恐慌を激化させる。なぜならば恐慌克服のための鬭争はイタリア資本主義の生死の鬭争となるからだ。だが『イタリア人民』はブルジョアジエに向つてどんな恐慌切り抜け策を献言したか？ 非常に簡單だ。曰く、若い人たちを外國へ送れ、さうすれば彼等は『未知のことを學ぶ』だらうと。

『戦後及び革命勝利後の指導者たちの任務——そしてこの任務は組織化の必要から生れた——は、未知のことを學ぶにある。貯金や家政なら女や老人でも間に合ふ。教養あり聰明なる吾國の青年は

ファシスト新イタリアから各國の新しい主都と各大陸とへ何物かを持つて行かねばならぬ。吾國はもう狭い。新しい經濟政策は吾々の手と、吾々の指導的理性とを要求する。吾々はこの期待を持つて、吾々の思想の發展と吾々の經濟政策の必要とに對する支柱を世界に創建せんと努力しつゝある』。

既に數年前から、ファシズムの指導層がぐらつき出したことを種々の事實が示してゐる。工場委員に關する論戦と、ファシスト労働組合組織者の或る者が大衆の壓迫によつて行つた讓歩とは、ファシズムの指導者の間に一定の方針のないことを曝露した。この論戦は數週間繼續して、ムッソリーニの決定によつて終結した。その決定は、ファシスト工場委員——それはたゞ「監督と警察と」だけのもの

のであつても——の可能性を否定した。だがこの論戦そのものとファシスト組織者たちがこの提議を正當づけた動機とは、ファシスト・イタリアの指導的政治圏の内部に於ける不安定と動搖との證據である。またその後しばらくしてファシスト新聞界にもう一つの論戦が始まつた。これは一つの論説に端を發するものだが、その論説の筆者は間違ひなくムッソリーニ自身か、それとも彼の命を含んだ者だつた。そしてこの論説は非常に曖昧な形式で書いてあつて、もしこの瀬踏みが望み通りの結果を惹き起さなければいつでも引つ込めることができやうになつてゐた。この論説は、疑ふ餘地もなく「反ファシスト的」民主主義者たちの聲明に向つて公開の討論を挑んで、相手の意見を聞き出さうといふ企らみだつた。これを讀むと、ファシスト政治の第三期があり／＼と現はれてゐる。即ちファシズムは自分を國民全體と同じものだと言ひ始めてゐるのだ。反ファシスト新聞ばかりでなく、二三の『極ファシスト』新聞さへ、この論説を評して、そのなかにはファシスト黨解體の思想が含まれてゐると言つた。この評言は一ヶ月後になつて、ムッソリーニのローマ進軍七週年紀念日の演説のなかでやつと取消された。つまりムッソリーニはこの『第三期』に關する論争で、反ファシスト陣營の形勢と、ファシズム自身さへもの形勢とを探らうとしたのだ。これは明かである。だが黨の總元締自身が、彼の黨を解體すべきか維持すべきかといふ問題を提出したといふ事實だけで、或る不安定と動搖との徴候を示すに充分である。これは非常に特徴的な徴候だ。

これらすべての事實は、支配的諸階級の頭が狂ひ始めた證據だ。この気分は、ファシズムが自分の

權力を主張するための諸機關の上に反映した。第一に工業家シンヂケート「カルテル」が不平を言ひ始めた。第二にファシスト黨の内部に——黨を指導する軍隊的規律にも拘はらず——鬭争が始まり、隠し切れぬ倦怠の色が擴がつて來た。民兵組織はもう絶對安全の道具ではなくなつた。邊境地方ではあちこちでぼつ／＼叛亂が起つてゐる。殊に民兵組織がその出身社會層を同じくする大衆と接觸してゐる所でさうだ。ポーラ Pola (イストリア縣) では、死刑執行部所屬の二人の民兵がゴルタン W. Gorjan の死刑執行を命ぜられても、射撃を拒絶した。ファエンツァ Faenza (ローニーヤ縣) でも、多數のファシストが負傷した事件があつて黒シャツの動員命令が下つた時、この命令に従つた者はほんの一部分しかなかつた。また共産主義者や一般に反ファシストを嗅ぎ出すためにスパイとして工場へ送り込まれたファシストたちは、情勢の困難なために疲勞し始めた。彼等は益々『帝國主義の曉』の約束に對する信仰を失つて、經濟關係が絶えず逆轉して行くのに氣がついた。多くの場合工場内のファシストたちは企業者と管理部とに向つて積極的に反對した。この雰圍氣のなかで最近四ヶ月間に非常に重要な出來事が起つた。これらが重要だといふのは、これらの出來事が、最近三年間消極的だつた都市や農村で鬭争の更新の行はれたことを示してゐるからである。とは言へこれらの證明は僅かな大衆と僅かな地域とをしか含んでゐない。だがそのなかにはすでに大衆の鬭争精神の目ざめたことが現はれてゐる。大衆は、自分に對立する装置がもう數年前のやうに精力を持つてゐるものではなくて、中立的立場を取つたり、また場合によつては——トリーノ及びミラーノで最近の工場争議中にあ

つたやうに——公然と親睦をさへ示してくれるものだ、といふことを悟つた。その外に重要なことは、これら最初の覺醒の徴候の見え出したのが、丁度支配群が恐慌の困難と見透しの缺如とから頭を狂はせた時だといふことである。

吾々は先に「全國株式會社聯合」の理事長の報告の一節を引いた。なほこゝにミラーノの一新聞の論説から一節を引くことができる。そのなかでは、危険に當面して新規の賃銀切下げが要求されてゐる。

『今日の情勢に於て即ち暴風の最高潮に際して、靜かな港へ入港するためには指令官と士官（といふのは企業者のことだ——ガルランデイ）は絶大な努力を要する。この時に當つて、よき艦長は必ずや乗組員の食料を減するだらう』。

この提議は容易ならぬ不安を曝露してゐる。だがこれは實行することができない。失業は増大してゐる。一週間の就業日数は二三日に過ぎない。ローマ進軍七週年紀念日のムッソリーニの演説は「峻厳な」ものだつたが、それでも不安を包み切れなかつた。ドゥルモーナ Dulmona その他の農民蜂起はこの「峻厳な」演説のあとで起つたのだ。在トリノのフィアットのリンゴット Lingotto 工場に於ける労働者と管理者との爭議、ミラーノに於けるミアミ Miami 及びセルヴェストリ Selvestri 工場の労働者による事務所占領、エミリア Emilia 及びデノヴァに於ける公然たる失業者デモ、フイレンツェに於けるファシストの射殺、ヴェネチアに於ける大衆運動——これらすべての出來事、及びこゝに數へ上げる値打のない他の出來事、また更に報告のない他の出來事は、次のことを證明してゐる。即ち大衆は消極的な状態から起ち上らうと努力してゐること、この努力に對してはもう一九二七—八年頃のやうなデマゴギーの手段——ファシズムはその助けを借りて革命的階級闘争の更新の危険を外らせやうとした——は用ひられてゐないこと、従つてファシズムは今度は容赦なき反動の手段を用ひなければならないこと、がこれである。

九 戦争準備

國內恐慌の特徴を見るとファシスト・イタリアが國際領域で占めてゐる地位が分る。ファシズムは、窒息する外ないこの情勢から脱れやうとして、國際舞臺に於て陰謀と挑戦との政策を行つてゐる。イタリアがヘーグとロンドンと「の軍縮會議」でやつた掛引きは、反フランス掛引きである。イタリアはフランスの要求に反對して、これをその要求に關する討論へとおびき出さうとしてゐるのだ。尤もこのことは、公式には、ファシスト新聞に書いてあるほど明確に定式化されはしなかつた。イタリアのバルカン政策は徹頭徹尾フランスを向ふに廻してゐる。これと同様にリビアの南境奪取（これは數億リラを要する冒險事業だ）も、兩國の北アフリカ領地の境界を確定する意志のないフランスを相手にしてゐる。フランスは或る意味で戦争の到來まで待つてゐることができるとは、イタリアの努力は、できるだけ速かに世界の狀態を變更することを目的としてゐるのだ。だがイタリアは、黙つて引つ込むこともできず、さうかと言つて遠征を行ふわけにも行かない状態にある。言はゞヒステリーと理

性とが相互に交替して、再び新しいヒステリーの發作が起るといふ状態だ。これらの對立は、新聞、公式の演説、熱病的な戰爭準備に現はれてゐる。國際對立の尖鋭化は客觀的に戰爭の勃發を有利にする。今日では、ファシスト文書の説教を見ると、政府が、『世界中どこでもうまく行つてはゐないのだ』と言つて自ら慰めてゐるといふ印象を受ける。

10 結語

だからイタリアの革命情勢は切迫してゐる。新しい情勢の開始は次の點にある。

a、經濟恐慌の困難と見透しの不確實さのために、指導者群のなかに不安定と幻滅とが生じてゐる。恐慌にひどく悩まされてゐる諸群と恐慌を大して感じない諸群との間に衝突が起つてゐる。

b、都市と農村との小ブルジョアジーが没落し始めた。彼等はもとはファシストだつたが今では中立になつたり、公然と反ファシストになつたりしてゐる。

c、農業恐慌の結果は、數千の小農のプロレタリア化、及び多數の小經營の破産となつて現はれてゐる。農村に於ける大農政策は失敗し、農村に於て大衆運動が起つてゐる。

d、プロレタリアートは積極的になつて來た。

e、世界恐慌の發展と資本主義諸國家間の諸對立の尖鋭化とは、イタリア恐慌を激化させてゐる。アメリカ恐慌はすでにニューヨーク取引所に於けるイタリア有價證券（特に工業證券）の相場に影響した。

こゝではたゞ今日の情勢のなかで際立つてゐる諸傾向をあげたに過ぎない。だがこのことは決してファシズムが破局に瀕してゐることを意味するものではない。ファシズムはまだぶち壊れてはゐない。ファシズムはこの情勢を『支配』するために種々の方策を廻らしてゐる。これらの方策は、種々の點で激化してゐる情勢を緩和し労働者農民運動の活潑性を壓迫するために國家の干渉を用ひるといふやり方だ。金屬工業の恐慌に面して、ムツソリーニは（軍用鐵道線の建設の國營事業を約束して）トリノのフィアット工場の管理部にかう命令した。曰く、短時間労働者の労働賃銀を——企業者が労働者に信用を授與するといふ形式で——一週四十時間就業労働者と同じ高さに上げる、と。労働者は再び完全に就業した後、この負債を賃銀からの差引きで支拂はなければならない。このやり方は明かなトリックだ。即ちこれでは、a、企業者が労働力に對して多大の支拂ひを行ふやうに強制されたことにならない。b、これは二三の工業家に政府と契約をやらせることにはなるが、失業を少しも緩和したことにはならない。c、工業家は一時的失業者に對する扶助金支拂ひの必要を免れる。『労働の停止は失業ではない』といふ理由で。このやうな政策の結果は國家豫算の負擔を重くする、そして一部の労働者は樂になるかも知れないが、労働者大衆は工場内の『労働停止』制度のおかげで少しも扶助金を受けないで、却つて劣悪化される。

同時にムツソリーニは労働者農民のあらゆる行動を野蠻に壓迫してゐる。これは大中心地、殊にミラーノではひどい。こゝでは反動は急速に野蠻に行はれてゐる。

だがファシストの方策及び壓迫の特徴は、今日では以前とは違つて來た。今日では吾々は恐慌發展の諸段階を通過して來て、今や大衆運動の發展段階に達した。吾々の××××このことを計算に入れなければならない。

第五部 植民地

第一 支那に於ける恐慌

(ア・イ・ウィン、一九三〇年三月十四日)

支那から來る報道は、急速に展開しつゝある一つの經濟恐慌を告げてゐる。この恐慌は、支那の農村だけでなく、工業並びに商業の中心地をも襲つてゐる。

支那に於ける農業の恐慌はもうすでに年來續いてゐるのではあるが、今日のやうな恐慌の尖鋭さは「共和制」が布かれて以來の全期間を通じて曾てなかつたほどのものである。甘肅省では二百萬の人間が餓死し、更にその上二百萬人は春の收穫まで生きのびるかどうか怪しくなつてゐる。陝西省及び四川省ではその状態はあまりこれに劣らない。だがそれは甘肅省、四川省、陝西省だけでさうなのではない。「アメリカ對外政策協會」American Association for Foreign Policy によれば、三千萬人が主として北西支及び北支で、生計のあらゆる手段を一物も持たない。中支及び南支では状態は、これほど破局的ではないが、しかしさうは言つても、絶え間ない戦争、租税の過重、階級闘争の激化、懲罰隊の矢つぎ早の襲來の結果、やり切れなくなつてゐる。

支那史上未曾有の銀價暴落は、金融、工業及び商業を異常な危機的状态に陥れてゐる。アメリカ金融恐慌で口火を切つた一般的世界經濟恐慌が決して小さくない役割を演じてゐるのは言ふまでもな

何百といふ商業及び金融企業が閉店しつゝあるばかりでなく、上海製粉工場の三分ノ二を下らぬ部分が休業した。なほその上に残りの部分も閉鎖される危険がある。支那の最大企業の一つである『ナン・ヤン Nanyang』兄弟煙草會社』を先端とする幾多の支那系煙草工場が閉鎖された。最近の報道によるとナン・ヤン工場は、『英米煙草會社』の手に移りつゝあるさうである。木綿工場も破産に當面してゐる。

そこでこゝにあげた産業部門の著しい部分は輸入原料で操業してゐるといふ状態である。異常に重大な恐慌は絹絲産業をさへも襲つた。絹絲産業にとつては支那弗の價格下落は利益でなければならぬ筈なのにさうなつたのだ。もし一九二九年が絹絲産業にとつて最も悪い年の一つだつたとすれば、一九三〇年は、アメリカその他諸國に於ける恐慌と關聯して——専門家の意見によると——レコードを破るだらう。最近の報道によれば、上海のあらゆる絹絲紡績工場は（まだ季節も終らないのに）もうすでに生産を制限してゐる。同じことは漢口その他の工業中心地でも看取される。

文字通り何百萬の農民が餓死してゐるのに、『國民政府』は、南京の近邊に（恐らく國外からの勿體ぶつた訪問者に見せるためなのだらうが）模範農場の建設をやつてゐるに過ぎない。都市に於ける恐慌の増大は、政府の聲明の洪水や幾多の方策を生ぜしめた。これらの方策は國內産業の發展を促進するものと見せかけてゐる。これらの方策は多く紙上方策なのだが、そのうち紙上方策でなかつたものは、労働者階級彈壓のための諸方策だけである。

上海社會問題委員會は、『労働者の騷擾』の解決の基礎となるべき『十二ヶ條の原則』を規定した。これらの原則の意味は、労働者團結權を更に多く剝奪しやうとすることにあり。上海に次いで最も重要な工業地であり南京の統制の下にある武漢では、國民政府當局は、『ストライキ及びあらゆる労働者の騷擾』を禁止した。なぜならばすべてこれらは共產主義者の水車に水を注ぎ込むことになるだけだからださうだ。

そこで南京政府とその代理人たちは、絶えず革命化しつゝある労働者運動にまたもや新たな彈壓を加へるといふ方法で、支那及び外國の資本家及び工業家たちの手前大いに功勞を立てやうと試みてゐる。この後者は南京（政府）にとつては殊更必要なのだ。なぜならば南京は『統一戦争』に當面してゐり、この統一戦争は實際に於ては支那ブルジョアジーからさへも嫌はれてゐるのだから。『今や——とイギリスの「エコノミスト」はその支那通信員の一人の手紙を引用してゐる——南京の支那インテリゲンチヤは輕蔑否憎惡をもつて語つてゐる。……統一の魔神はもうすでに自分の魔力を失つてゐる。平和、これこそは、たとへ『全國統一』を犠牲にしやうとも、インテリゲンチヤにとつてばかりでなく、政治圏外に立つあらゆる人々にとつても亦た萬能藥なのである』。

根本的に言ふならば、こんな『犠牲』は全然要らないのだ。なぜならば、支那の統一は、支那反革命家連のどんな個々のグループの勝利にも依存するものではないから。支那の統一は不可避的に來

これら諸國の急速な開拓にあると言ふことができるだらう。これらの諸國の農業は、或る一種の生産物ばかりを耕作することを典型的な特徴としてゐる。多くの場合一國の全經濟生活が一種の生産物の生産に依存してゐるのだ。

だから南アメリカの諸國はそれぞれ一個の大工場だと言ふこともできるだらう——キューバは砂糖を、ヴェネズエラは石油を、ブラジルとコロムビアとはコーヒーを、エクアドルはコ、アを、アルゼンティンは小麦を、ウルグアイは肉類を、ボリヴィアは錫を、チリは窒素化合物を、それぞれ生産してゐる。これらの諸國を世界恐慌の發展と結びつけてゐる原因は、まさにこの典型的特殊性のうちにあると言はなければならない。

一九一四年乃至一八年の戦争はラテン・アメリカに於ける生産の發展を助けた。そしてこれらの諸國は帝國主義軍隊の一大兵站部となつた。戦後になつて二三の工業的農産物（ゴム、木棉、其他）の生産が増加した。農業生産物がかやうに急速に發展したのは、技術の發展と、帝國主義者共によつて持ち込まれた資本主義的生産形態の發展とに基くものである。この生産形態が發展するに従つて、これと、大土地所有制——封建制及び奴隸制と結びついた——との間に矛盾が生長する。

ラテン・アメリカ諸國は帝國主義列強に従屬してゐる、そして益々急速にイギリスと合衆國との鬭争の地盤に轉化しつゝある。この兩國は、これら諸國の自然資源と國內市場とを争つてゐる。

各々の帝國主義は、ラテン・アメリカの豊富な資源と市場とを占有しやうと努力しながら、これら諸

國の工業化を妨げやうと一生懸命になつてゐる。ブラジルの鑛脈から出た鐵はイギリスへ輸出され、それから機械の形になつてブラジルへ逆輸入される。それにも拘はらず南アメリカでは工業化の過程が進行してゐる。即ち（一）自然資源の開發、（二）加工工業の發展、及び特に大量消費商品を供給する工業（例へば繊維及び製靴工業、等）——これらは外國資本家によつて所有されてゐるかまたは統制されてゐる——がこれである。この工業的發展はプロレタリアートを創造しこれを強化する。吾々はラテン・アメリカの經濟の典型的特徴をあげるに當つて、この一事を強調しなければならぬ。だからと言つて、決してラテン・アメリカ諸國に非植民地化が起つてゐると言ふわけではない。反對だ。外國産業家に屬してゐない産業部門でさへ、外國金融資本と結びつけられてゐる。外國金融資本はラテン・アメリカの經濟生活を支配してゐるのだ。

二 二大競争者

このやうにラテン・アメリカ諸國の經濟と帝國主義列強の經濟とが結びついてゐる結果、ラテン・アメリカの基礎的な經濟的地位を獨占しやうと鬭争してゐる二大帝國主義列強の利害が、相互に鋭く衝突することになる。イギリスと合衆國とのこの鬭争は、戦後になつて極度に激化した形態を取つた。合衆國帝國主義はイギリスのヘゲモニーに對して攻勢を取つた。即ち南アメリカに於ける投資を五—六倍増して、イギリスが今まで諸國で占めてゐた地位を奪ひ取らうと強襲を開始したのだ。だがアメリカ合衆國はこの『平和の』戦争に於てイギリスを打ち破つたのだと考へるのは間違ひだ。アメリカ

合衆國とイギリスとのラテン・アメリカに於ける闘争は、これら二大帝國主義列強の世界闘争のほんの一環であり、しかもこの闘争にはちつとも『平和的な』ところなんぞありはしないのだ。この闘争を特徴づけるものは不斷の革命と戦争とだ。同時にまた合衆國の南アメリカへの所謂『平和的侵入』は、階級闘争、支配集團同志の争闘、支配階級の種々な集團の不斷の蜂起——勞役大衆の血を流す蜂起（なぜならばこの闘争はいつも數百萬の勞働者農民を犠牲にして行はれるからだ）——の強度化を意味する。これらすべての意味するところは、飢餓と、窮乏と、奴隸制だ。

英米帝國主義間のこの闘争は、最近數年間に於ける南アメリカの政治生活のすべての現象を説明する。帝國主義列強はラテン・アメリカ諸國をして互に相手の喉に噛みつかせる。そして租借地の形で二三のヨーロッパ諸國よりも大きい領土を買収する（例へば、ブラジルのアマゾン Amazon 州、ミネア・ジョリアス Minas Gerais 州に於けるフォード租借地の如きはこれだ）。彼等はまた國家官吏を買収する。帝國主義者共は、諸國への借款を手段として租税及び關稅の組織を手に入れ、鐵道を差押へる、等。そしてこのやうにしてこれら諸國の政府までも買収してしまふ。その結果すべての選舉は帝國主義者間の闘争を反映する。ブルデョア陣營のすべての衝突は帝國主義者間の衝突に對應する。

ラテン・アメリカの經濟のかやうな根本特徴が分つてゐれば、世界的過剰生産と同時に起つた今度の恐慌の性質は説明ができる。木棉、ゴム、及びコ、アの價格下落、ブラジルのコーヒー價格釣上げ政策の完全な失敗（この政策は南アメリカのコーヒー生産者の恐慌を悪化させたに過ぎなかつた）は、

現實の經濟的破局だ。

これらの諸國は主として一種の生産物を生産する。この事實があるために、この一種の生産物に影響する恐慌はその國に、一般的經濟恐慌を惹起する。次にこの恐慌が貿易差額の入超を絶えず増大させ、國家豫算の均衡を攪亂し、全經濟情勢を震撼させるやうな金融情勢を作り出す。まだこの上に、もう一つの事情があつて、これらの諸國家をなほ一層引き留めておき、様相を全く破局的にしてしまふ。——といふのは、大多數の南アメリカ諸國は多量の食料品を外國から輸入してゐる、といふ事實である。例へばメキシコはその人口の消費する食料品の約四—五〇%を輸入する。カリベア Caribbea 島及びアンティリア Antilla 島も亦た大部分を輸入する。このことがあるために、ラテン・アメリカが帝國主義列強に従屬する程度は増大する。

三 失業は急速に増大する

ラテン・アメリカの諸黨が注意を向けねばならぬ社會的諸現象は、目下のところ特に失業にある。これらの諸國には失業數字がない。だが現在ある計數によつて見ると、南アメリカの失業が益々急速に増大してゐることは疑ひない。ブラジル、メキシコ、及びコロンビアでは失業は規則的に増大してゐる。數千人の勞働者が生産及び耕作地から追ひ出されてゐる。勿論これらの諸國の大多數には季節失業があることは確かだ。キューバではこのやうな失業がこの二三年來『普通に』擴まつてきた。この失業形態はかなりの程度まで單一生産物の生産といふ制度と結びついてゐて、南アメリカの數百萬人の勞働

者の窮乏の原因となつてゐる。だが吾々が新現象としての失業のことを語るときには、ラテン・アメリカの經濟及び社會生活のこの『普通の』側面だけに注意を限つてはいけない。吾々はラテン・アメリカの新しい經濟恐慌の結果たる失業の新性質を強調しなければならぬ。

これら諸國の支配階級は帝國主義列強の利害を代表してゐる。彼等は失業増大の危險に氣がついてゐるのだ。二三の諸國に於ける耕作地所有者たちは、既に失業の増大が重大な政治的行動になるのを防ぐ手段を講じ始めた。即ちブラジルの大耕作地所有者たちは賃銀を四〇%切下げ、同時に労働者に二三の讓歩を與へて玉蜀黍、蠶豆、等の播種を許した。

失業の性質は恐慌の性質から出てきたものだ。だからその絶滅は非常に疑はしい。失業は今後二三の變化を受けるだらう。このやうな情勢に於ては、失業の水準は一般に上向するだらう。とは言つても、南アメリカのすべての諸國に於て同じではないだらう（例へばニカラグアでは既に運河工事が始まつてゐるし、公共事業が創設されやうとしてゐる）。

四 アメリカ恐慌の影響

合衆國の恐慌はラテン・アメリカにどう反映したか？

まだ充分時間が経つてゐないので、吾々は事實や經驗や文献を引用するわけにゆかない。だがニウヨーク〔取引所〕大動亂以前のラテン・アメリカの恐慌を研究すれば——世界恐慌の典型的特徴を考慮に入れて——合衆國の恐慌が南アメリカに及ぼさうとしてゐる諸結果の一般的性質を指摘することができる。吾々は次のことを知ることができ

るだらう。即ち、アメリカ恐慌は、ラテン・アメリカの殆んどすべての諸國で既に看取された恐慌の一

部分である、といふことがこれである。

何よりも先づ、アメリカ恐慌はラテン・アメリカに於ける英米の鬭争を強度化するだらう、と主張することができ、アメリカ合衆國は、フーヴァーが述べた通り、經濟的膨脹政策の新コースを提案してゐる。フーヴァーはかう聲明した。曰く、合衆國は、公共事業援助のために資本を輸出し、また商品をも輸出せねばならぬ。だが外國工業を援助する政策は拋棄せねばならぬ。なぜならばこれは競争を起させる原因であるから、と。この綱領は南アメリカに適用されて、帝國主義者間の對立を増大させるだらう。これは全く自明のことだ。また次のことも豫見することができる。即ち、市場に接近した場所にアメリカ企業を設立するといふ計畫は、將來も續行されるだらう。

アメリカ合衆國は、公共事業援助のため資本輸出によつてイギリスの地位を奪取しやうとしてゐるし、また同時に自分の『援助』してゐる諸國に於て支配權を獲得しやうとしてゐる。例へばコロムビアで何が行はれてゐるかを見よ。過去二年間アメリカ合衆國はコロムビアに借款を許した。だが今になつてこれ以上少しも借款を與へないで、却つてこれを利用して政府に壓迫を加へてゐる。選舉運動は事實上合衆國とイギリスとの鬭争だ。コロムビアは大アメリカの機構の一部になる必要がある、とはつきり主張する傾向さへ現はれてきた（例へば候補者ヴァレンチア Valencia の論説）。資本の輸出と同時に、道路及び鐵道建設用材料、自動車、鐵道設備、等が輸入されるだらう。この

政策は切迫した恐慌期にあるラテン・アメリカ諸國に或る金融的救済を與へることができらう。だが同時に、借款——これはその國を英米資本と結びつける——を求めてゐる諸國は、擔保を、即ち供託物を提供しなければならぬ。恐慌は緩和されるどころか、却つてもつと激化するだらう。だが恐慌はまた、アメリカ（及びイギリス）の機械輸出政策の發展を阻害する。即ち南アメリカに於ける農業恐慌は機械の市場を狭めてゐる。他方では、アメリカ合衆國の關稅率上げが祟つて、二三の南アメリカ諸國からアメリカへの輸出が減少し、その結果としてこれらの諸國ではアメリカ品の購買が減少した。

アメリカが關稅率を引上げたのでアルゼンティンはアバーノン協定 Abernon Treaty 側に奔つた〔譯註〕。これがまたラテン・アメリカに於ける英米闘争のもう一つの要素である、この闘争は南アメリカ諸國同志の間でさへ關稅率を引上げさせる（延いては生計費を騰貴させる）勢を助成するだらう。

〔譯註〕「世界經濟年報」八七三頁參照。

吾々は先に農業恐慌に一言觸れておいた。この農業恐慌は、熱帯の生産期と世界恐慌とに結びついてゐる。この農業恐慌の結果、地主たちの面前には當面の問題として生産費切下げの問題——換言すれば貸銀切下げの問題——が現はれてきた。

五 衝突の見透し

恐慌の政治的見透しは、政治的闘争の發展と階級闘争の激化とを指し示してゐる。即ちどつちかのラテン・アメリカに於ける帝國主義者共の役割を常に記憶しておかねばならぬ。なぜならば、それがこれらすべての諸國に於ける政治的闘争及び支配集團同志の闘争の性質を規定するのだから。例へば老大な面積を有するブラジルは、相闘争する諸州を擁してゐる。ミネア・テラス Minas Tereas州——この領土は、アメリカ合衆國に屬する鐵、マンガ、及び金の資源を包含する——は、サン・パウロ San Paulo 州——コーヒーを産し、イギリスの手中にある——と闘争してゐる。大統領選挙の選挙闘争はブラジルの二大州を繞つて遂行される。アルゼンティンでは、アメリカ合衆國はメンドシア Mendoza 州の電氣企業を買収中であるし、鐵道をも買収しやうと努力してゐる。

最近數年間に、ラテン・アメリカ諸國の政治生活に新しい強力な要素が擡頭してきた。即ち、反帝國主義、反大地主、反國民ブルジョアジの革命的大衆闘争である。南アメリカの情勢に於けるこの新要素は、労働者大衆と農業労働者及び貧農の大衆とが政治生活に於て、獨立の役割を演じ始めたことを物語る。この新要素は既に帝國主義者共と諸集團——諸國家を自分の利益のために支配してゐる——とを驚駭させてゐる。大衆運動の結果、ファシスト獨裁と「民主」國家の急速なファシズム化とが現はれてきた。ファシズム化の過程はどこでも同じだといふわけではない。若いメキシコ民主主義

は急速にファシズムに向つて進化した。アルゼンティンの民主主義とウルグアイの「ガリバルデイ」民主主義とのファシズム化は（経済的及び歴史的理由で）徐々に進んでゐる。これらすべての現象を経済恐慌と政治危機との見地から考察しなければならぬ。世界恐慌は植民地及び半植民地の恐慌を深刻化する。本國の政治危機と階級闘争の強度化とに面して、支配階級は自分の経済的貯水池たる諸國に特別の壓迫を加へざるを得ない。これは全然明瞭だ。従つて本國の労働者大衆と植民地半植民地の被搾取大衆とは、もつと密接に接觸しなければならぬ（以下省略）。

二 ラテン・アメリカの経済恐慌

（コーガン、一九三〇年二月七日）

ラテン・アメリカ諸國の経済恐慌は合衆國恐慌のすつと前から始まつてゐた。これには特別の原因があつた。即ち主として植民地商品の世界的過剰生産がこれだ。コーヒーの世界生産高の九〇%、甘蔗糖の世界生産高の五〇%、ココアの世界生産高の大部分、等がラテン・アメリカ諸國から出る。

植民地商品にはこゝ數年來慢性的な過剰生産がある。言ひ換へれば世界経済のこの部分では、資本主義的世界経済の有機的矛盾——生産力の増大と販賣市場の狹隘化との矛盾——が、特に際立つて且つ鋭く現はれてゐるのだ。

昨一九二九年末に、世界の砂糖生産、特に甘蔗糖生産に、決定的な崩落が起つた。これと同時に、ブラジル・コーヒー——世界生産高の四分ノ三を占める——の生産、貯藏、及び輸出を人工的に統制

してゐたブラジルの「コーヒー生産保護協會」が完全に瓦解した。

合衆國はラテン・アメリカの植民地商品（特に砂糖とコーヒーと）の最も重要な買手だ。だから合衆國の経済恐慌がこの恐慌を激化させ尖鋭化させたことは言ふまでもない。植民地商品の値下りは特に十一月と十二月とに急速になつた。

植民地商品の價格運動は一九二九年のまる一年中絶えず下向してゐた。尤も時々は投機的上向が起つて僅かの間この下向を中斷したが、それとてもこれらの市場の慢性的不景氣の一般様相を變更するものではなかつた。

ゴム市場は特に最近數ヶ月間絶え間なしの値下りを示した。これは合衆國自動車工業のゴム需要が減退した結果だ。ゴム世界市場の景氣逆轉は、ブラジル、ボリヴィア、及びグアヤナのゴム生産に悪影響を及ぼした。

今發展してゐるコーヒー生産の世界恐慌は、中央アメリカの諸共和國（グアテマラ、サルヴァドル、コスタリカ）の経済に影響を與へてゐるばかりでなく、ブラジルの経済にも影響を與へてゐる。ブラジルのコーヒー生産には五億米弗以上の資本が投資されてゐる。コーヒーの過剰生産から恐慌が起るだらうといふ危険は、既に一九二八年からあつた。高い價格水準は、いつもブラジルの「コーヒー生産保護協會」の手で人工的に維持されてゐたに過ぎない。ブラジル、二三の中央アメリカ諸國、及びコロムビアの生産増大の結果、コーヒーの世界的過剰生産が起つた。この過剰生産は世界貯藏高

の増大となつて表はれた。即ち貯藏高は一九二八年（十月一日）には千九百六十六萬袋だつたのに、一九二九年（十月一日）には二千百十三萬七千袋に増加した。一九二九—三〇年度の世界コーヒー取引の需給差額の概算を見ても、状況は同様に非常に不利だ。世界供給高四千五百二十五萬六千袋、世界需要高二千二百萬袋である。ブラジル政府はロンドンでシュレーダー Schröder、ロートシルド Roisch-ニコ等の銀行業者と借款を約定したが、勿論こんなことで進行中の恐慌を喰止めることはできない。

ブラジル國民經濟の恐慌は、二三の他の經濟部門の不景氣のおかげで尙ほ一層深刻化した。例へば纖維工業——特にサン・パウロ州の——がこれだ。これはブラジルで一番重要な工業部門だ。ブラジル纖維工業の恐慌は、過剰生産と販路難とにある。この恐慌の起つたのは、主として農業生産の狀況が不利なおかげだ。特に農産物價格が低く、生計指數が上つたおかげだ。ブラジルの國民經濟恐慌の結果ミルレイ爲替相場は非常に動搖し始めた。

世界の砂糖耕作、残に甘蔗耕作の恐慌はキューバの國民經濟にとつて大打撃だ。キューバの砂糖耕作は現在の世界價格では損失續きだ。例へばキューバの砂糖生産費は一英封度につき二セント半だが世界販賣價格は二セント二厘五毛にしかない。

最後に、去年の長い早魃が二三の南アメリカ諸國に悪影響を及ぼした。早魃は特にアルゼンティンの農業に非常に悪い影響を及ぼした。こゝでは最も重要な生産物の收穫が、前二年に比べて五四%及び四〇%減少してゐる。政府は十二月十七日に銀行券の國內金兌換を停止した——尤も銀行には金輸

出の權利を保證したが。その結果アルゼンティンの爲替相場は五%方急落した。

國民經濟的恐慌はラテン・アメリカ諸國の大多數を把へた。この恐慌の裏には、イギリスのダバーン委員会 d'Abernon Commission が南アメリカ——アルゼンティン、ブルジル、及びウルグアイ——の主要經濟中心地を訪問したといふ事實があるのを見逃してはならない。南アメリカの二三の共和國政府はダバーンと條約を結んだ。この條約は、イギリスは自分の地位をおめくくと北アメリカ帝國主義に明け渡すつもりはない、といふことを示すものだ。例へばアルゼンティンは、ダバーン條約によると、今後二年間に英貨八百萬磅のイギリス商品（主として鐵道及び公共事業用品）を購入する義務があり、その代りイギリスも同額のアルゼンティン商品（主として食料品）を購入する義務がある。「スタテイス」(一九二九年十月二十六日)は、興味ある南アメリカ鐵道設計書を叙述しながら、公然とかう説明してゐる。「吾々の目標は、南アメリカを南北に連絡し、グアヤナからパタゴニアに至る南アメリカの大平原に鐵道を引くことにある」。目下のところでは、イギリス帝國主義の力、及びイギリス帝國主義が南アメリカを搾取する可能性を、過少評價するのは間違ひだ。といふのは今ではイギリス資本が絶對的に優勢だからだ。イギリス資本は四十二億三百萬米弗に達する。これは南アメリカの外國投資全額中の五〇%に當る。然るにアメリカ資本は二十一億五千七百萬米弗にしかならぬ。これは外國投資總額の二六%だ。

ドイツ新聞はかう評價した。曰く、ダバーン委員會の活動は、北アメリカ資本が南アメリカ殊

にアルゼンティンへ嵐のやうに膨脹してゆくのを妨げる現實の危険だ、と。右の情勢から見るとこの評言は全く正當である。

合衆國の經濟恐慌の結果、疑ひもなく合衆國から——特に中央Ⅱ及び南アメリカへ向つて——の資本と商品との強制輸出が行はれるだらう。ところが二三の中央アメリカ諸共和國(キューバ、グアテマラ、サルヴァドル、コスタリカ)では恐慌、ブラジルでも恐慌、アルゼンティン農業も恐慌状態、二三の南アメリカ小共和國(コロンビア、ボリヴィア)では持久的な不景氣だ。これは合衆國の外國貿易の膨脹、即ち北アメリカからこれらの諸國への輸出にとつて自然的限界となる。だから合衆國からは南アメリカ、特にブラジル及びアルゼンティンへ向つて、資本輸出が激増するだらうと期待することが出来る。

従つて今後數ヶ月間には、中央Ⅱ及び南アメリカでの合衆國とイギリスとの競争は激化して、もつと尖鋭化した形態を取るだらう。そして世界經濟のこの部分でのこれら二大帝國主義強國の對立はなほ一層尖鋭化するだらう。

一九三〇年はまた同時に、ラテン・アメリカのプロレタリアートと土地を奪はれ貧窮化した農民階級との、階級意識と鬭争能力との生長の年だらう。

第三 エジプトの恐慌

(ペー・ツェーハー三月二十五日)

エジプトは議會制度に復歸したが、事實上はイギリス統督とそのエジプト傭兵との獨裁がまだ存続してゐて、これに多少お粗末な『民主的』表構へをつけたに外ならないが、最近數年間潜在してゐた經濟恐慌は議會制度復歸と時を同じくして尖鋭化しつゝあり、まだその絶頂には達してゐない。この恐慌が今後一層昂進することは免れ難く、その影響は今でももう非常に破局的だから、昂進すればエジプト經濟は完全に崩壊してしまふだらう。

エジプト經濟政策がかういふ風に發展して來たのは第一にまづイギリス帝國主義の政策の結果である。イギリス帝國主義はエジプトが獨立の經濟政策的活動をやると意識的に蔭から一々これをぶち壊さうとし、またエジプトの經濟力をして自國の權力欲専門に御用を勤めさせやうとして試みざる手段はなかつたのだ。今マクドナルドは身ぶりも物々しくイギリス—エジプト條約をエジプトに提示してゐるが、これもかういふ政治的和合の幕の蔭で一層殘忍なエジプトの經濟的掠奪の道を開かうとするのに過ぎない。ベルリンの一民主主義新聞はエジプト問題に於けるイギリス政府の態度を特徴づけて『退却』だと言つてゐるけれども、イギリス帝國主義はロハで『退却』するつもりはない。イギリス帝國主義はこのことからたんまり儲けてゐる。その結果はエジプト、殊に勤勞住民を今後一層掠奪することになるだらうが、そんな結果にはお構ひなしだ。

イギリスの帝國主義諸新聞は目下開始せらるべき新方途をもう議論しつゝある。諸新聞はエジプトへ高利、長期信用を賦與すべきことをすゝめてゐる。これは少しも新しい方途ではない。エジプトに

於けるイギリスの優越勢力を築いたドイツ、イタリア、帝國主義の用ひた方法の燒き直しである。ドイツ、イタリアは、エジプトに於てイスマエルの治下に紊亂した經濟とその結果の財政状態逼迫とを利用して、四百萬磅でスエズ運河株を手に入れてスエズ運河の支配權をイギリスに奪ひ取つたばかりでなく、なほ一層借款を貸付けて、エジプト財政の管理權を握り、それから一步一步組織的にエジプトの獨立破壊を遂行し、軍事的占領によつてこれを完成した。それと同じやうに今日社會帝國主義者マクドナルドは、國民的獨立獲得のために鬭争してゐる。抱負に満ちたエジプトを數百萬の信用によつて經濟的にイギリス帝國主義の鞭にかけ、これによつてエジプト市場を一人で支配しやうとしてゐる。イギリス—エジプト條約採用の唯一の積極的な結果はエジプト經濟を根こそぎイギリス帝國主義の利潤利益の下に隸屬させることだらう。今ナハス・パシヤの指導下のワフド内閣は外見上の民主制を確立したが、この民主制の代金は右の隸屬なのだ。

エジプト經濟恐慌の主要原因は住民の購買力が絶えず低下してゆくことで、購買力低下の結果はもう一月も續いてゐる購買者ストライキとなつてをり、またさらに進んで商業や工業を無數に破産させてゐる。かういふ風に購買力が絶えず低下してゆく原因は數年來エジプトの棉花輸出に諸困難のあることで、この諸困難は一方ではスタン棉花の競争が着々と進出して効を収めてゐることから來、他方では棉花生産の國際恐慌から來たものである。最近數年間政府は救濟出動を遂行してゐても、エジプト棉花市場の諸困難を除くことはできなかつた。エジプト農民は輸出業者に引渡した棉花の代金支拂

を空しく待つてゐるが、その棉花はエジプト海港の倉庫に積み置きになつてゐる。そこで農民は必要な支出をその他の市場向自家生産物に轉嫁する。だがかういふ生産物はまづ第一にエジプト勞働住民の家計用食料品である。その結果は食料品騰貴の昂進で、——これは給料俸給の引上げで埋め合せられないから——その結果生計は今後一層悪化するだらう。その上注意しなければならぬのは、賃銀水準の低いことは他に例のないほどで、土着の勞働者—俸給者階級ばかりでなく、エジプト來住のヨーロッパ勞働者及び俸給生活者の賃銀も、最低生活費より遙かに低いことである。

政府は新關稅率の準備をし、棉花輸出恐慌の結果空つぽになつた國庫をこれによつて充實させやうとしてゐる。現在エジプトの一般の興味はこれに集中してゐる。ヨーロッパ人や土着の輸入業者は新關稅率がまだ効力を發生しない前に手持商品を充實させて、効力發生のとき出て來る關稅の開きを利用しやうとしてゐる。カイロ商業會議所の報告によると、五月一日から十一月二十日までの關稅收入は前年同期の收入に比べて倍加した。この期の關稅增收は百十七萬一千八百五十四エジプト磅に上りこれは價値に於て、一千四百萬磅の商品輸入増加に當つてゐる。世間では新關稅率の施行までには一千七百萬乃至一千八百萬磅の價値の輸入増加が起つてゐると計算してゐる。この輸入増加は純粹に投機的の理由から起つてゐる。關稅引上げで一石二鳥をやらうとしてゐるのだ。商業界では新關稅を待つて初めて物價引上げをやらうとしてゐるのではない、今もう物價釣上げを試みつゝある。さうして又もや先づ第一に釣上げられるのは食料品價格なのである。新關稅の効力發生後物價がどのくらゐ高

く發展するだらうかはまだ概観がつかない。

ナハス・パシヤの政府はこの成行きに向つて全く施す術なくたすんでゐる。この政府はマハメード・マハムードの獨裁政府と同じやうにイギリス帝國主義の御意の儘なる道具である。議會開會のときナハス・パシヤが朗讀した勅語とそれをワフド議會が承認したことは既にこれを證明してゐる。獨裁が清算されワフド黨が政府を後繼してからも何も變つたことはないのだ。將來も、イギリス統監と政府の諸省の椅子にある統監の腹心の徒黨とが見てイギリス帝國主義の利益にかなふと思はれるもの外は何事もないだらう。十年前バルフォアは「エヂプトにはイギリスの支配が存在してゐる、將來も同地にイギリスの支配は維持されるだらう。エヂプトの國人も、外人も、何人もイギリス政府の政策のこの原理について誤解してはならない」と聲明して、エヂプトに於けるイギリス政策の原理を立てたが、この原理は今日もなほ生きてゐる。今日はイギリス帝國主義から見て、エヂプトに若干の外見上の讓歩をし、さうしておいて自國の利潤利益に完全に從屬させることが都合よく思はれるのだ。この場合社會帝國主義者マクドナルドは喇叭吹き役にあたつてゐて、その民主主義の歌調でエヂプト民衆を惑はして、その眞の状態を見ないやうにすることになつてゐるのだ。反英氣運は増大して、エヂプト住民の益々廣汎な層を捲き込んでゐる。アラビア労働者階級は急進化して、既にストライキ運動が起つてゐる。これらの事實はイギリスの社會帝國主義者の欺瞞策動にぶつつかるエヂプト勤勞住民の抵抗が増大してゐることを示すものだ。

昭和五年九月九日印刷
昭和五年九月十四日發行

(定價金八拾錢)

落丁題丁は何時でも取替へます

—(1)書叢濟經界世一—

譯者 經濟批判會

東京市麴町區四番町九番地

發行者 足助素一

東京市麴町區四番町九番地

發行所 叢文閣

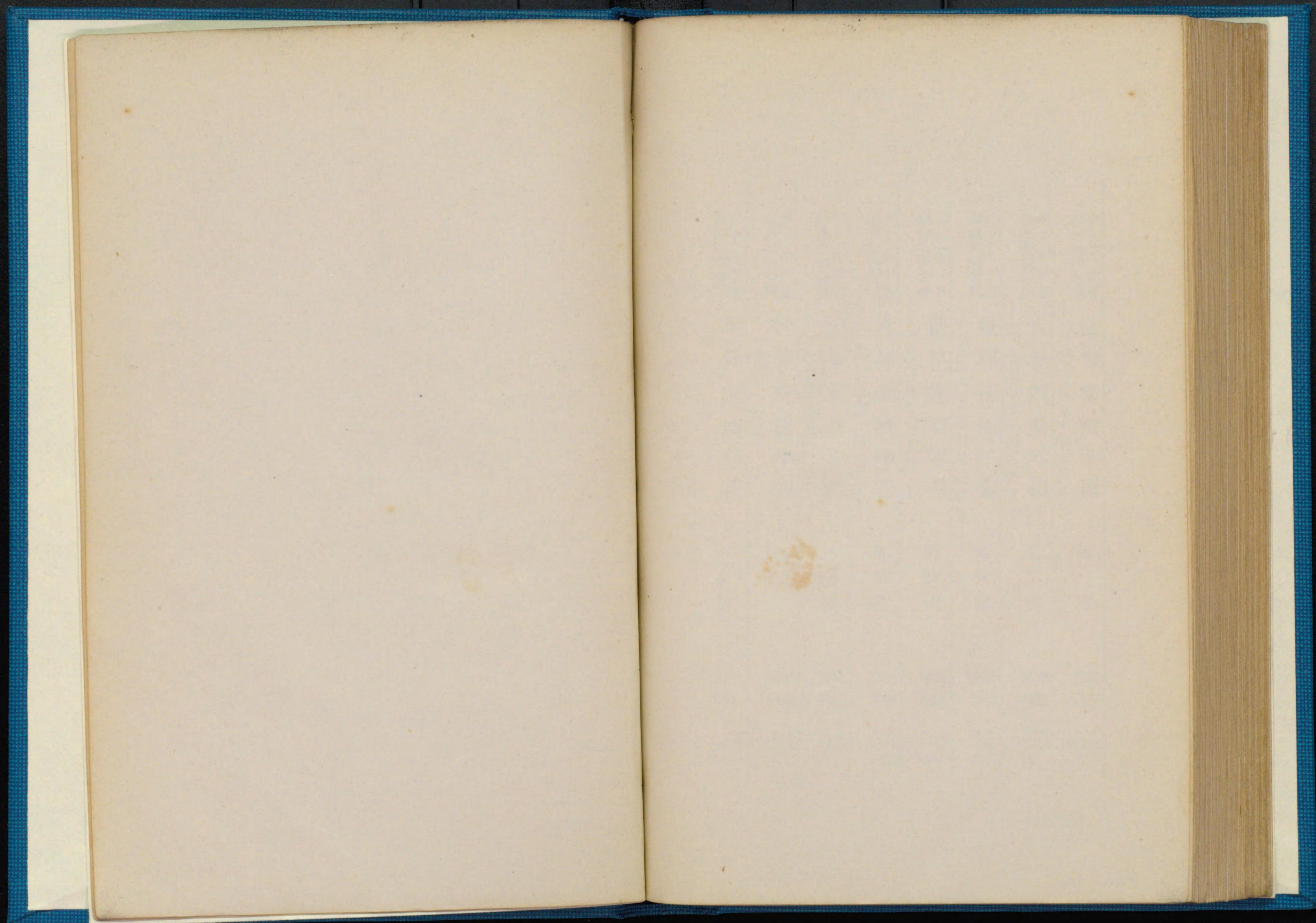
振替東京四二八八九番
電話九段二五六八番

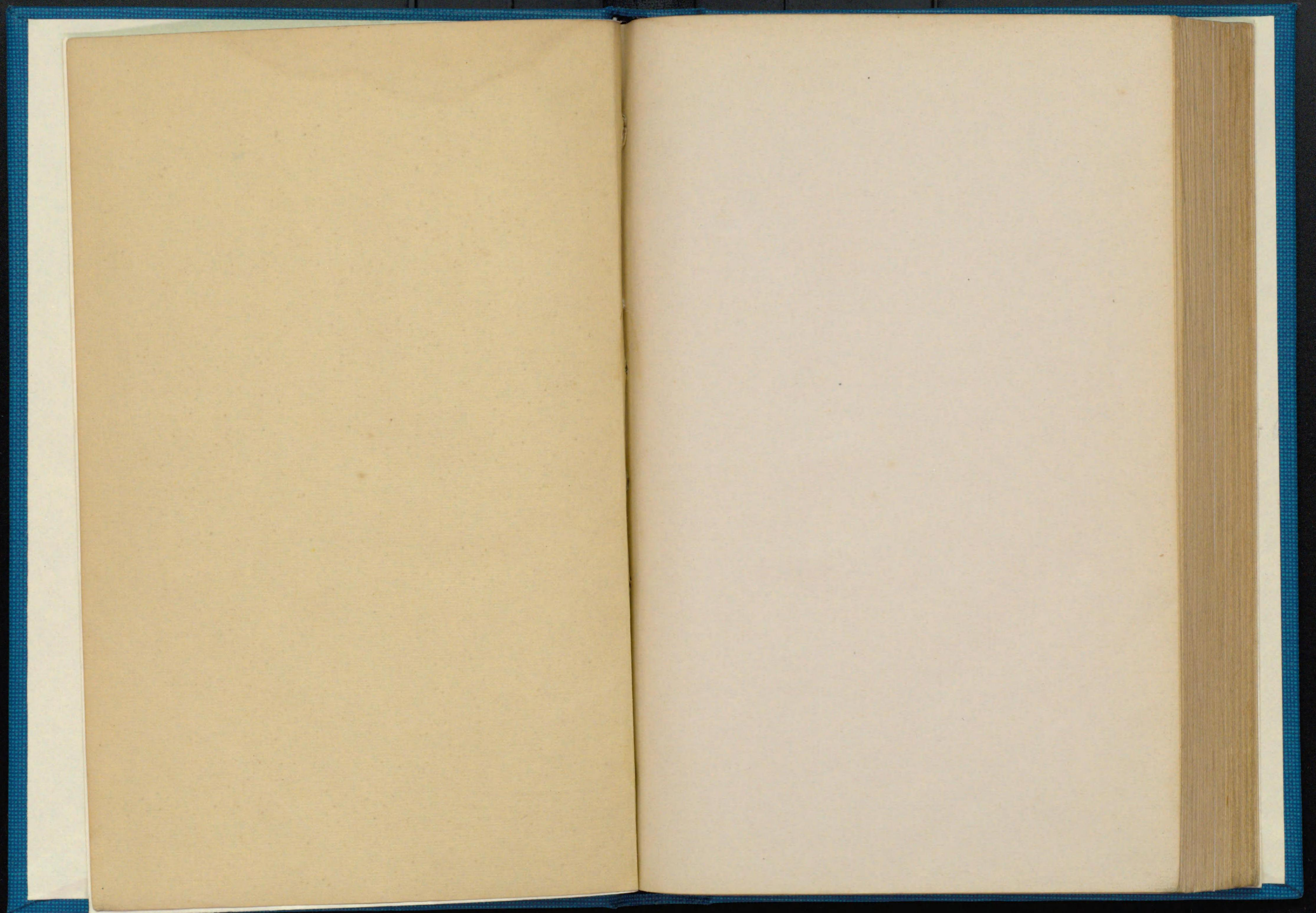
東京市神田區錦町三丁目二十五番地

印刷所 文成社印刷所

前田宗松

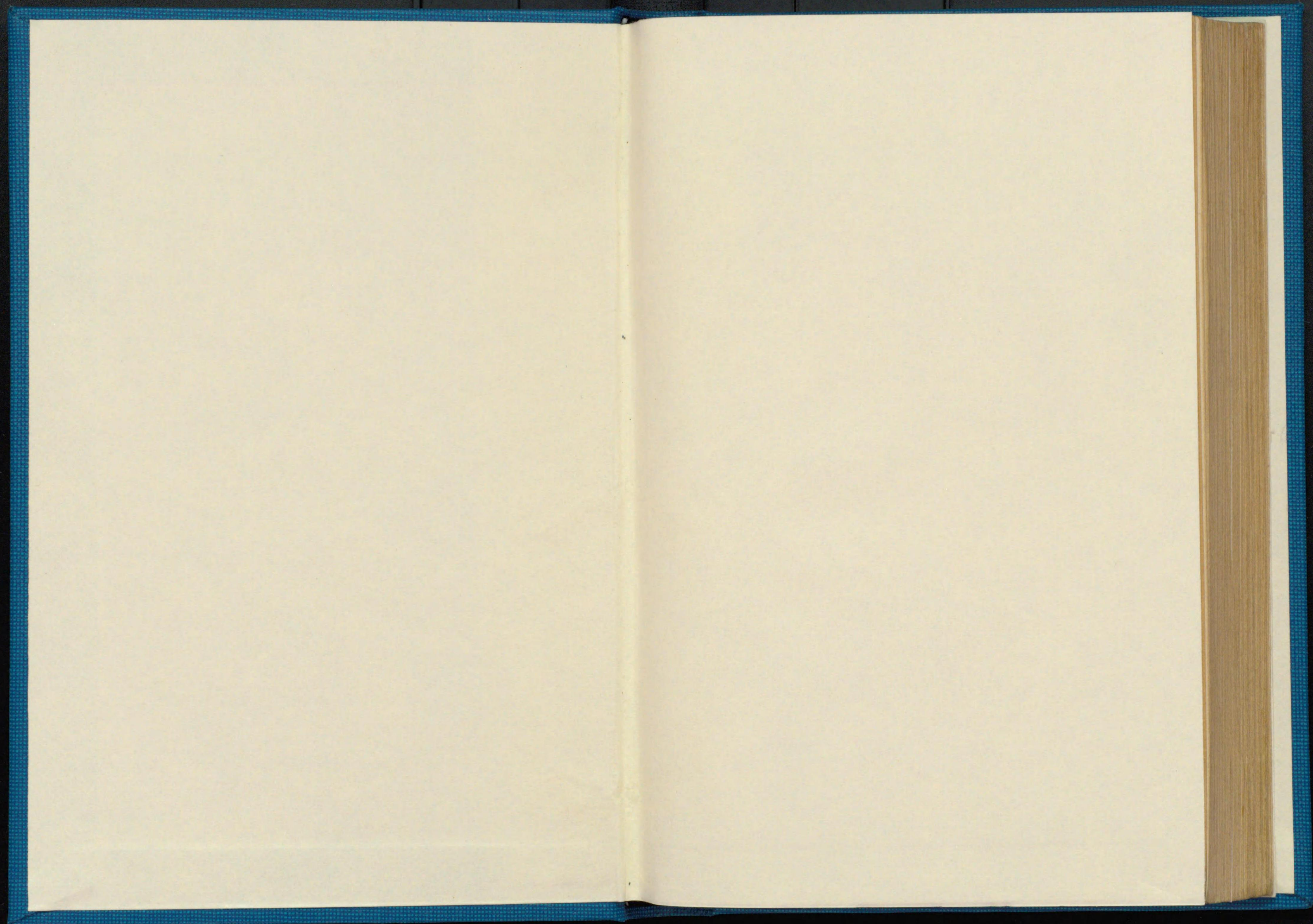
ヴァルガ著 經濟批判會譯	世界經濟年報 一九二七年上半年に於ける	第一輯	送定料價	●●九八〇
ヴァルガ著 經濟批判會譯	世界經濟年報 一九二七年下半年に於ける	第二輯	送定料價	●●〇〇八〇
ヴァルガ著 經濟批判會譯	世界經濟年報 一九二八年上半年に於ける	第三輯	送定料價	●●〇〇八〇
ヴァルガ著 經濟批判會譯	世界經濟年報 一九二八年下半年	第四輯	送定料價	●●一〇〇〇
ヴァルガ著 經濟批判會譯	世界經濟年報 一九二九年第一期四半年	第五輯	送定料價	●●〇八六〇
ヴァルガ著 經濟批判會譯	世界經濟年報 一九二九年第二期四半年	第六輯	送定料價	●●〇八六〇
ヴァルガ著 經濟批判會譯	世界經濟年報 一九二九年 III	(7)	送定料價	●●〇九八〇
ヴァルガ著 經濟批判會譯	世界經濟年報 一九二九年 IV	(8) (改訂版)	送定料價	●●〇〇八〇
ヴァルガ著 經濟批判會譯	世界經濟年報 一九三〇 I	(9)	送定料價	●●〇九八〇





KI 3F
-91

¥ .80



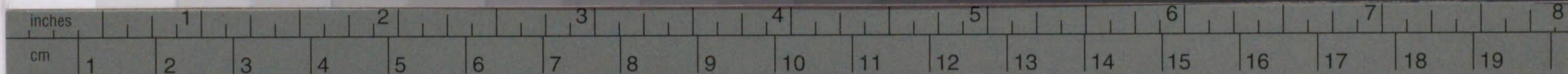
〇
複写

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

